

明治三十九年四月廿五日 後

大正 政務 殿 御 奏

次及 御 奏

外務大臣 牧野 閣下

陸 密 加ニのニ号

以書 勅 改 啓上 信 陳者 西國 古 侯爵

閣下 本使 之 宛ラレタル 本 同 十三日 付 付ニ

外務省

四号 書 勅 其^{確カ}ニ 受 領 點 信 該 書 勅ニ 於テ

同 侯爵 之 陸 陸 陸 島ニ 於ケル 露 國 免 許 人ハ

漁 場 貸 付、 競 争 入 札 以 前ニ 於テ 其 要 求 ヲ

日 本 官 憲ニ 提 示 スルニ トラ 急 リ タル カ 考 ソ 該

官 憲ニ 其 旨 テ 聞 知 セ サ リシ 權 利 ヲ 無 視 シテ

リシト 責 任 ヲ 負フヘキ 謂ハシ ナント 御 意 見 ヲ

御 示 御 示 御 示 本 使ハ 左ノ 事 實ニ 付 閣 下

MT 5,2,17,42 141

MT 5,2,17,12 140

仰任高ク仰キ及信即露國臣民「クラマレ
 ンゴ」セソノ「及」テンビー「並」ニ「ゴリウケ」ノ「漢場
 ハ本使ノ知ル所ヲ正確ナクトセハ「ホ」ウ「マ」ス「基」
 批准ノ日ト同日ニ「（果露政府ヨリ之ヲ）」日本臣民ニ「貸貸」セシムルモノニ
 有云信「（其頃）」ハ「恰」カニ「西」國間ノ「立」款状態ハ
 續「カ」ニ「結」ル「東」ニシタル「時」點ニシテ「露」國人ハ
 未タ日本ニ「渡」来致サズ「且」（譯）「平」松「全」務「書」ハ「皆」ホ
 外務省
 必我表セリサリシカ故ニ露國政府カ日本政府ニ讓
 其ニシテ地方ニ於ケル新租ニ關シテ「（譯）」採用「（譯）」セシムル
 確定ノ事項ニ關スル人等ニ於テ「（譯）」知セサリシモノ
 有云
 猶ホ又「（譯）」クラマレ「（譯）」ノ代理人タル「（譯）」カピ「（譯）」テン「（譯）」ノ「（譯）」フラン「（譯）」ロフ
 ハ捕虜トナリタルカ為メ其委任者ノ利益ヲ防護
 スルヲ得サリシ次第ニ有之而シテ「（譯）」テンビー「（譯）」ニ於テ



ハ薩哈連ニ派遣シテ其使用人カ同地ニ於テ
日本地方官憲ニ認ソラルヲ得サレシ昔本使
ニ確言致シ

此ノ事情ニ付露國見許人ニ競争入れノ日以
前ニ於テ其推初ヲ主張スル下ハ事實不能ナリシ
治者有之ヲ其本意ニアラス且遊リヘカサル者
澤澤ニ付之カ責任ヲ負フヘキ謂ハレ無之部ニ
外務省

貴國政社ノ官吏ニ事ヲ取急キタルカ為ソ其政
社ノ人全推委カカ「カ」マカスニ於テ明カニ尊重シ重
スヘリ約束セシ見 推初ヲ侵奪シタルモノノ様相

見ニ信加連ニ薩哈連ノ漢地ニ於ケル新推
存立ニシテ現ニ漢業ノ船舶器具カ存存ニ據リテモ
之ヲ認知セサレト歎ルモ得ヘカサルモノ
當時該地橋ニ存ニタル下ニ

此等漢地ノ新橋中ナリ
不ヲ明瞭ニ表彰



提出表之様由々
前記各通達
如申進房本使
表之候敬具

一九〇六年四月十一日 東京に於て

外務省

MT 5.2.17.18 148

5-0837

0123

大臣

聖書

次官

政務局

送第 三九七

大急
通商局

大書課長

明治三十九年四月二十三日
同 年 九月 二日

日發遣

主任

取調課
おせい

外務大臣西園寺公望

陸軍大臣寺内正毅殿

樺太島に於ける行政官廳ノ不審交分ニ對シ

如何ナル
鐵道上ノ救済を以テスル事陸軍省ヨリ見聞合

外務省

ノ件

本邦在留ノ外人ノ行政交分ニ依リ其權利ヲ傷害セ

ラレタリトスル場合ニ於テハ必先我國法ヲ認ムル迄法ノ手ヲ依

リ其救済ヲ求ムヘキモノトシテハ該手段ヲ用ザル事件ハ第

ニ政府之ヲ外交上ノ問題ト為スコト同意セサルハキ旨旨函

告文ヲ返報本大臣ヨリ在本邦各領事大使館ニ使彼等ニテ

發送シタル次第ハ既ニ去十四日付ニテ通邦申進示函ニ

テ之旨又新領土タル樺太島ニ非ズル事陸軍省ヨリ

MT 5.2.17.12 150

MT 5.2.17.12 149

於テお主人カハ以テ分ニ依リテ權利ヲ傷害セ
レタリトスル^{思惟} 均等ニ於テハ如何ナル方テ依リテ
満テ来ムキヤ聊カ疑義ニ正リルニ付
名ハ竟見テ其方段及テ同カ
也

外務省

MT 5,2,17,12

151

5-0837

0125

機密

明治廿九年五月廿三日 起草

五月三日

楊

主任

25

要書

次官

郵

郵務局

正副課長あ達

西園寺の務大臣

寺内陸軍大臣

機密送第

樺太漁場に於ける露子臣民の權利に關し

利に關する件

外務省

大急

樺太漁場に於ける露子臣民の權利に關し

テハ露子臣民の權利に關する件に對し

協定交渉中あり

別紙甲号通リ

本島に於ける露子臣民の權利に關し

本島に於ける露子臣民の權利に關し

本島に於ける露子臣民の權利に關し

MT 5,2,17,12 153

MT 5,2,17,12 152

申送回直下家去三回附ラテ同公使ヲお致
乙号御文ノ通テ回答有之ハカニ付テハ何レ
追テ可及ハ恠議少クハ段不カ敢及テ
通テカ

お致 甲号お務大往筋 四月十三日付
乙号 高公使表筋 四月十五日付
お致 乙号 高公使表筋 四月十五日付

外務省

MT 5,2,17,12 154

5-0837



明治廿九年五月四日接受

滿發第一〇四號

照會

明治廿九年五月四日

外務省通商局長石井菊次郎殿



樺太島樺葉任規則改正ノ義并
在島守備隊司令官代理ヨリ別紙
ノ用意見申出有之候要當局ニ於テ
ハ付案ノ用意致方礼ヲ在ニ對ス
ル貴局ノ用意已至急義ヲ致度
及照會有也

陸軍

MT 5.2.17.12 156

MT 5.2.17.12 155



樺太島漁業假規則改正ノ儀ニ付申請

樺太島漁業ニ就テハ昨年陸軍省告示第十五號
ヲ以テ假規則ヲ布相成該規則ニ依リ慶今ヲ行
ヒ候慶該規則ハ實際ノ狀況ニ適合セサルモ有之
候ニ付別記改正要旨ニ依リ軍令ヲ以テ規則制定
致度候ニ付御認可相成度共竣及申請候也
明治三十九年四月

樺太守備隊司令官山田保永

代理

樺太民政署民政長官熊石喜一郎

陸軍

陸軍大臣寺内正毅殿

MT 5,2,17,12

158

MT 5,2,17,18

157

樺太島嶼委任規則改正要旨

一 依規則第二章第二項ヲ削除スルコト

理由

依規則第二章第二項(ハ)ハ濠洲地方制限ニテ濠洲國官廳ノ
 公認ノ一九〇九年ニ濠洲地方區域表ニ掲グルノ及今
 日一九〇九年ニ濠洲國官廳カ長形ノ特許リサヘラレ
 体ノ長モ濠洲ニ結集現濠洲ト長距離ニ於テ
 良好ノ濠洲地方ト云ハ之ヲ開放特許スル有要ナリ
 然レモ
 二 別方法ヲ要スルモ濠洲地方ノ範圍ヲ擴張シ昨今ニ於
 ル濠洲地方及ノレトシテ特許リ得ル者非依規則第二章
 條第号及第号ニ濠洲地方ノ長形モ同規則第号第号第号
 項ノ規定ノ特許ナキニテ故依規則第三章第号第号第号
 項ニ適合スル者優先ノ特許リ得ルコト
 依規則第四章第号第号第号第号第号第号第号第号第号第号

陸 軍

理由

昨今濠洲ノ特許リ得ル者ト引換キ濠洲ノ特許リ
 有スル種々トシテ又昨年濠洲地方ノ濠洲外ノ
 高價ニ於テハ濠洲地方ノ特許リ得ル者トシテ濠洲
 政府ハ濠洲地方ノ特許リ得ル者トシテ濠洲
 シテ濠洲地方ノ特許リ得ル者トシテ濠洲
 濠洲ノ特許リ得ル者トシテ濠洲地方ノ特許リ得ル者トシテ濠洲

MT 5.2.17.12 160

MT 5.2.17.12 159

考 考

如何ニ條件トシテ濠洲
 (濠洲事務官者)
 條件ハ政府ノ
 濠洲地方ノ
 濠洲地方ノ
 濠洲地方ノ
 濠洲地方ノ
 濠洲地方ノ
 濠洲地方ノ

0130

5-0837

樽太島酒造業任規則改訂要旨

以規則第二章第二項ヲ削除スルコト

理由

任規則第二章第二項可スルハ樽造り制限ニテ酒造官廳ノ
 公認ヨリ一九〇三年迄酒造区域表ニ掲グルモノ及今
 八百九十九年酒造官廳ノ長程ノ特許リ世ニハルモノ
 依リ之モ重街ノ特許現酒造ト其高距離ニ於テ
 良好酒造場アリトキニ之ヲ開放特許スル有量ナリ現
 在ニ依

陸軍

此方より要旨トスルモ優等之権ノ範圍ヲ擴張シ昨年之於
 優等之権者及ナレトモ特許リ得ル者其任規則第二章
 條號及第二章之條號ト云々者其任規則第二章分二
 項ノ規定ノ為メ特許ナキモノニテ故規則於テ距離ノ
 規定ニ適合スル者優等ノ特許リ得ヌコト
 任規則第二章分三項ヲ削除スルコト

理由

昨年優等ノ特許リ得ル者其任規則第二章分二
 項ノ規定トシテ又昨年ノ酒造法改訂ノ為メ距離外ノ
 高價ノ酒造リトシテ其任規則第二章分三項ノ規定
 改訂ノ後ハ對シテ優等ノ特許リ得ヌコト強斷
 シテ其任規則第二章分三項ノ規定ヲ削除スルコト
 當ノ如ク之ヲ一具シテ昨年酒造法優等ノ特許リ得ル者

MT 5.2.17.12 160

MT 5.2.17.18 159

考 考

如何ニ條件ノ下ニ優等ノ特許リ得ル者ニ依リテヤ
 (特許事務官考)
 條件ハ民政署ノ見込ハ昨年優等ノ特許ニ附シ
 名簿簿貸下料ハ前年ノ倍額前年ノ倍額者
 二對シテハ均半額ニ引下クル見込ナリ
 但引下ノ理由ハ昨年酒造法優等ノ特許リ得ル者
 倍ニ上ルモノアリ意外ノ高價ナリシヲ以テナリ
 經理局

カリシエ洋と澳坊ノ距離加任規則より多分三波ノ
 規定に足らざるカおノ特許ヲ免ル能ハカリシ者アリ
 是レ亦以て國に於テ優先ノ地位ヲおスラ至多ト認ムル也
 又任規則外關係亦三波ノ割際スルに南都府大ノ澳坊ヲ
 本邦人ノ特許シタムルノ於テハ亦知ルル也
 三多波ノ特許ノ後ニ新ニ澳坊ノ關係に政府ノ余ヲ據ル能
 的設備ヲおサシムル中於テハ亦入札ニ依ラズニ特許
 ヲ照フントアムヘキ規定ヲ設ケルコト

理由

陸軍

現在地形其他の状況、係、直轄澳坊、通セザル揚陸
 之於テ多額ノ経費ヲ投ジテ新ニ澳坊ノ關係に政府ノ余
 入札準備ヲおサシムルノ權大ニ與ヘルコト
 又任規則より多分三波ノ割際スルに南都府大ノ澳坊ヲ
 本邦人ノ特許シタムルノ於テハ亦知ルル也

理由

傷定特許者及於此特許者ニミテ更ニ也候セト之
 者ハ亦以て國に於テ優先ノ地位ヲおスラ至多ト認ムル也
 又任規則外關係亦三波ノ割際スルに南都府大ノ澳坊ヲ
 本邦人ノ特許シタムルノ於テハ亦知ルル也
 五任規則より多分三波ノ割際スルに南都府大ノ澳坊ヲ
 本邦人ノ特許シタムルノ於テハ亦知ルル也

MT 5,2,17,12

162

MT 5,2,17,12

161



六月十四日
 陸軍省
 海軍省
 逕啓
 貴省
 六月十四日
 海軍省
 逕啓
 貴省
 六月十四日
 海軍省
 逕啓
 貴省

理由

昨午仮規則制定之際、鯨漁網間ノ間隔ヲ一キロメートル半（一キロメートルハ我九町十五間）トセラレタルモ、實係上一キロメートル半ノ間隔ヲ著タシムルノ必要ナク、露國従来漁場

間隔ハ約一露里（我九町四十五間）ナルコトヲ認メタルニ依ル

六、漁業特許ノ期間ヲ十ヶ年トスルコト

理由

漁業特許ノ期間ヲ一年ニ制限スルハ個人經濟國家經濟甚ク大ナル不利益アルヲ認ムルニ依リ、長期特許ニ改ムルノ必要アリ

七、海馬島ニ於テ鯨漁業ノ者多ク、内本則、規定ニ依ラズシテ特許ヲ得ルコト

陸軍

理由

海馬島ハ樺太本土ト異リ、趣ヲ異ニスルヲ以テ、此處ノ内特別ヲ設クルノ必要ヲ認ムルニ依ル

八、樺太島ニ在任島人ニ對シテ一宜ノ漁場ヲ限リ入札法ニ依ラズシテ、鮭鱒及鯨漁業ノ特許スルノ規定ヲ設クルコト

理由

樺太島島人ハ従来小漁具ヲ以テ、鯨漁ヲ興スルニ止マラス、速網ノ以テ鮭鱒及鯨、漁業ヲ營クノ慣例アリ、故等ニ此、漁業ニ因テ其衣食ノ料ヲ得タルモノナリ、昨



MT 5.2.17.12

理由
 昨年仮規則制定之際、鯉漁網間ノ間隔ヲ一キロメートル
 半(一キロメートルハ我九町十五間)トセラレタルモ、高天原上(一)キロメ

社會進運ノ急劇ナルヲ日十年ヲ經過セハ其
 状態ニ変動ヲ生スヘキハ明ナリ特ニ爾
 ヲ努メテアル樺太ノ如キニ捨テ然リトス故ニ
 十年ノ長期特許ハ其条件カ社會ノ状態就
 中經濟上ノ狀況ニ伴ハサルニ至ルノ日ヲ見ル
 コトアルヘシ故テ六年ニ改ムル方適當ナラン

経理局

七 海馬島ニ於ケル鯉漁業ノ高天原内本則ノ規定ニ依
 ラスレテ特許ヲ與フニコト

理由

海馬島ノ樺太本島ト異ニ趣ヲ異ニシテ其高天原内
 特別ヲ設クルノ必要ヲ認めルニ依ル
 八 樺太島内ニ在任田主人ニ對シテ一一定ノ漁場ヲ限リ入札
 ニ依ラスレテ鮭鱒及鯉漁業ノ特許スルノ規定ヲ設クル
 コト

理由

樺太島内田主人ノ往來ノ不便ヲ以テ特許ヲ與スルニ止
 マラスニ、網ノ以テ鮭鱒及鯉漁業ヲ管轄ノ慣例アリ
 故等ニ此ノ漁業ニ因テ其衣食ノ料ヲ得タルモノナリ昨

MT 5.2.17.12

164

謝
大正五年
陸軍省
監督
附

陸 軍										
九	前記ノ外ハ昭信ニテ人トシテ中者告示第十五号ノ									
十	右ノ規則ニ依リ規則ニ趣旨ニ依リ樺太守備隊									
十一	司令部ノ命令ヲ以テ規則ヲ設クルコト									
十二	右ノ規則ニ依リ昭信ニテ昭信ニ依リ告示第十五号ノ									
十三	昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ									
十四	昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ									
十五	昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ									
十六	昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ									
十七	昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ									
十八	昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ									
十九	昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ									
二十	昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ昭信ニ依リ									

MT 5,2,17,12 165

5-0837

0135

年俟多敷なるを、結果、建網ヲ以テ漁業ヲ管ムコト
 能ハサルコト、ナリ具、因、而、躬、状、評、定、ス、キ、者、アリ、依、テ
 適、者、俣、場、ヲ、開、キ、都、落、ニ、昔、日、俣、場、ト、シ、テ、之、ヲ、持、許
 ニ、服、主、ナル、監、督、ヲ、加、テ、旧、土、人、ヲ、保、護、ス、ル、必、要、アリ、ト

本件ハ陸軍省告示第十五号漁業
 依規則ノ改正トスル方適當ト存美

經理局

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

野村竹事と意見

本意見結年々陸軍省に於ては切除
ラ主権入ルトモ陸軍省に於ては切除
カハ付置キ切除キ切除キ切除

一仮規則第四條第三項露國人優先權、註
議ニ關スル規定ヲ削除スルハ從來樺太南
部ニ於ケル露國人ノ漁業權ヲ全ク認メサル
ニ因ルモノナルヘケレトモ右露國人漁業權ニ関
シテハ同下日露兩國間交渉ノ事件トシテ
決ミテ完結シタルモノニアラス故ニ本項ハ之ヲ削除
セサルヲ可トス但シ條約ノ結果ニ出テタル樺
太南部ニ於ケル漁業權問題ハ内國法
規ノ左右レ得ヘキモノニアラサルカ故ニ市販ノ
存否ハ前記露人漁業權ノ認否ニ依リ
何等ノ最優者ニキ限リニシテサルハ論ヲ俟
外務省

夕サレコトトス

MT 5,2,17,12 167

MT 5,2,17,12 166

5-0837

0137

25

軍令第十八號

落札漁場ノ建物其他財産取締規則

第一條 落札ニテ漁業ノ許可ヲ得タル者ノ落札漁場ニ於ケル

他人ノ建物及其他ノ財産ヲ現状ノ儘保管スルヘシ所有者若クハ

管理人ノ承認アルニテラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二條 他人ニ落札シタル漁場ニ漁業上必要ナル建物及其他

ノ財産ヲ有スル者ハ其漁場ニ於ケル明治三十九年度ノ漁期開

始前ニ之ヲ除去シ又ハ落札者ニ之ヲ譲渡スルヘシ落札者ハ

外務省

之ヲ譲渡スル義務アリトス 若シ其價格ニ付當事者ノ間

ニ協議調ハサトキハ民政長官之ヲ定ム

漁場ニ施設シタル溝渠、井戸、堤防、橋梁、棹間及其他ノ工作

物ハ無償ニテ官ノ所有ニ歸ス

第三條 前条ノ期間内ニ除去スル又ハ譲渡ササレ建物及其他ノ

財産ハ無償ニテ官ノ所有ニ歸ス

第四條 他人ニ落札シタル漁場ニ於ケル建物及其他ノ財産ニ

シテ落札者ノ漁業ニ妨害ヲキモノニ限リ、當分ノ内ニ之ヲ存置

スレコトヲ得ル場合ニ於テハ所有者之ヲ保管スヘキモ
ヲトス

第五條 他人ニ盗取レシモ漢場ニ建物及其他ノ財産ヲ有
スル者其保管又ハ除去ノ為ノ其漢場ニ封カントスルトキハ

民政長官ニ願出許可ヲ受クヘシ

第六條 前条ノ規定ニ違背シタル者又ハ所有者若クハ保管
人ノ弄謀ナクシテ他人ノ建物及其他ノ財産ヲ使用シ

タル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

外務省

第七條 本令所定ノ規定ニ罰則ハ代理者又ハ傭人ノ
所為ト雖之ヲ漢業主ニ科ス

第八條 本令施行ニ要スル細則ハ民政長官之ヲ定ム

明治三十八年十月一日

樺方守備隊司令官

MT 5,2,17,12

171

MT 5,2,17,12

170

大臣 次官
 政務 通商 人事 會計
 取調
 あほ
 デリントン氏
 Via
 東京

Sent, May 10, 1906. 1. p.m.

電送第 一 一 一 二 號
 Wks 19

Koshi
 London
 No. 66 Send Blue Book June 1901 containing report
 of Commission of transvalian Concessions.

~~Makino~~
 Saionji

MT 5,8,17,18 173

大臣 次官
 政務 通商 人事 會計
 取調
 あほ
 デリントン氏
 Via
 東京

Sent, May 10, 1906. 1. p.m.

電送第 一 一 一 二 號
 Wds.

Koshi
 Paris
 No. 36 Send all documents relating to adjustment of
 concessions of foreigners in Madagascar.

~~Makino~~
 Saionji

MT 5,8,17,18 172

5-0837

0140

明治二十九年五月十六日

陸軍省

陸軍省 送甲第四五七號

一〇〇七三

取調

あめ

田

田

25

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣寺内正毅

陸軍省

外務大臣青木周子

陸軍省

送甲に在りては、新領土に構太るは、於て外
 五人カ以て政廣分ニ其權利ヲ協定セラレ
 たり、思惟せん、協定に於てハ、故法に於てハ、
 各に在りては、協定に於てハ、目下軍政
 施す中、協定に於てハ、國有内地に於てハ、規
 定に於てハ、協定に於てハ、政廣分ニ其權利ヲ侵
 害セらるるに思惟せん、協定に於てハ、協定に
 陸軍省

上級軍部ニ在りてハ、更ニ其裁法ヲ受クルコトヲ
 せん、我ニ在りてハ、協定に於てハ、協定に於てハ、

MT 5,2,17,12 175

MT 5,2,17,12 174

5-0837

0141

三十九年五月十六日
陸軍省 陸軍部
取調課
あせあ

陸軍省 満蒙發第一八六號

受第一〇〇七二號

明治三十九年五月十五日

陸軍大臣 寺内正毅

陸軍省 陸軍部

外務大臣侯爵西園寺公望殿

由方
長

露國臣民ノクラマレンコノ關係セル樺太島漁場ニ對スル損
害賠償ノ義旨送來ニ一七號ヲ以テ亦自修了越了
系該漁場所有權ニ就テハ累々屢申述及自修了越了
之ヲ認メズ從テ損害賠償ノ責任ヲ生スルキ理由無キト
存スル以テ今之ヲ所有權問題ト關係ナレトスルモ明治三十
八年及九年ノ漁期ノ漁業ヲ管マントスル者露國官廳
ノ許可ニ基キ日本官憲ヲ優先ノ待遇ヲ受タルニ三

陸軍

十八年八月陸軍省告示第五号ニ依リ同年九月五日迄
ニ其旨ヲ日本官憲ニ申請セザル可ラス然レモクラマレン
コノ樺太ニ在在セズ且同期日迄ニ右ノ手續ヲ為サザル
カ爲メ其漁業ヲ經營スル能ハザルニ至ルリタレバナレバ
以テ之ニ對シテ帝國政府ハ賠償ノ責ニ任スルキ理由無
キト存スル可也此處理相以於此段及此回不

MT 5,2,17,12 177

MT 5,2,17,12 176

5-0837

0142

一五〇
(暗一五)

在露

三十九年五月廿四日前一二三五發

水野公使

林大臣

第三三號

三月二十八日露國官憲より在昌因憲兵公遣一府旅行規則違反、森ヲ以テ帝國臣民十五人内男八人女七人ヲ送致シ来リタル付其助於テ詳細取調ヲ遂ケタル處右帝國臣民ハ何レモ正当旅行券ヲ有レ有レ洗濯業其他適法業務に従事スル目的ヲ以テ浦塩ヨリ哈爾濱地方赴キタル者シテ何等ノ事由多突然同所於テ露國官憲ノ為メ監獄内投セシ且旅行券取上テ携帶金品ノ押取其他種々ナル虐待ヲ受

MT 5.2.17.12 178

テ數週間監獄ニ拘囚セラレタル後露國官憲ヨリ我軍憲ニ送致セシタル者ナラズ明瞭トナリ帝國政府ハ南滿洲ニ於テ露國臣民對シ事情ノ許ス限リ便宜ヲ與ヘ現殘留財産處分等ノ為メ該地ニ前住スルノ許サレタル者ノ如キモ多數ニ上リ居ルニ拘ラス露國官憲於テ帝國臣民對シ右如キ待遇ヲナスハ甚タ遺憾ノ次第ナル付貴官ハ前記越テ露國政府ニ通知シ其注意ヲ喚起セラルヘシ

MT 5.2.17.12 179

系者不明官信在簿抄寫及

其他ノ演畫權ニ関スル問題、付テ
 日本政府ニ於テモ可成好意ヲ以テ
 御慮分アル様願ヒタシト申サレタ
 リ右ノ問題ハ其後如何ナル所行ニ
 相成店ルヤ本官ノ心得迄電報ア
 リタシ

MT 5,2,17,12 180

大臣 菅 野 公 使
 No. 一六一九
 (晴九六)

林外務大臣 本野公使

露都發 廿九年五月廿七日 前一二五
 本野着 後六
 藤岡濟

第四六号

貴電第三三号ニ関シ

本日外務大臣ニ面會ノ上御訓令
 ノ趣ヲ通知ニ同時ニ貴電第三三
 号ノ件ニ付テモ尚回答ヲ促シタルニ
 在ハ露國政府ニ於テモ可成速カニ
 回答スベキ様取計ヲキ考ナレハ目
 下日本ニ於テ生シ居ルコトヲマシ
 コシ

取調 會計 人事 通商

第三三号 露國官署ニテ品置セル印入ノ在品同紙
 第三三号 露國官署ニテ品置セル印入ノ在品同紙
 第三三号 露國官署ニテ品置セル印入ノ在品同紙

MT 5,2,17,12
 三三三
 三三三
 三三三

5-0837

0144

其他ノ漢畫權ニ関スル問題、付テ
 日本政府ニ於テモ可成好意ヲ以テ
 御慮分アル様願ヒタシト申サレタ
 リ在ノ問題、且後如何ナル成行ニ
 相成店ルヤ本官ノ心得迄電報ア
 リタシ

MT 5,2,17,12 180

大臣 菅野 一六九
 No. 一六九
 (晴九六)

林外務大臣 本野公使

露都發 本若着 廿九年五月廿七日 前一二五、
 後二、
 藤島齋

次官 政務 通商

人事 會計 取調

貴電第三三三号ニ関シ
 本日外務大臣ニ面會ノ上御訓令
 ノ趣ヲ通知シ同時ニ貴電第三三
 号ノ件ニ付テモ高回答ヲ促シタルニ
 在ハ露國政府ニ於テモ可成速カニ
 回答スベキ様取計ヲ考テレハ目
 下日本ニ於テ生シ居ル、ウラマレンコシ

第三三三号 露國官署ニテ留置セラレ在品回答
 第三三三号 露國官署ニテ留置セラレ在品回答
 第三三三号 露國官署ニテ留置セラレ在品回答

MT 5,2,17,12
 三三三号
 引捷十階ニ於テ

急
事務

明治廿九年五月卅一日接受 16

大臣

次官

明治廿九年五月十七日
同日附信
取調課
伊藤文彦
主任
野村
要目付

通商局

五十四

臨時外務大臣侯爵西園寺公望

露國特命全權公使バウメテフ閣下

政務局

廿九年六月四日記録課接

外務省

西園寺侯爵

以書翰致啓上候陳者樺太島貴國臣民ノ漢業權ニ関スル去
月十三日附公信ノ對シ同二十四日附御返翰ニ於テ閣下ハ貴國漢
業權者等カ漢國領内ノ競争ノ札以前ニ於テ其要求ヲ我官
憲ニ提示スルコト能ハカリレハ何レモ相當ノ理由アリテ然ルモノナル趣
ヲ説述セシ且我識知全權委員カ「ポーワマス」ニ於テ尊重スヘキ
旨ヲ約シタル權利ヲ侵害スルノ結果ヲ生スルニ至リタルハ專ニ我官
該官廳カ急遽事件ヲ處理セムトシタリシカ為ナル様御弁明相
成宜末免許人等カ露國政府ヨリ取得シタル契約書ハ帝國政
府ヨリ何レノ官憲カ其効力ヲ審査スヘキヤヲ閣下ニ通報スルト

MT 5.2.17.12 183

MT 5.2.17.12 182

25

急
事務

明治廿九年五月廿一日接受 16

大臣

明治三十九年五月十七日

同月三十一日

取調課
主任
野村

裕田

次官

通商局

臨時外務大臣侯爵西園寺公望

事務

權公使バウメテラ閣下

政務局

明治廿九年六月四日

外務省

西園寺侯爵

以書翰致啓上候陳者權太島貴國臣民ノ漁業權ニ関スル去
 月十二日附公信ノ對シ同日附御返翰ニ於テ閣下ハ貴國漁
 業權者等カ漁區貸付ノ競争ノ札以前ニ於テ其要求ヲ我官
 憲ニ提示スルコト能ハカリシハ何レモ相當ノ理由アリテ然ルモノナル趣
 ヲ説述セラレ且我講和全權委員カホトマシテ於テ尊重スヘキ
 旨ヲ約シタル權利ヲ侵害スルノ結果ヲ生スルニ至リタルハ專ラ我當
 該官廳カ急遽事件ヲ處理セムトシタリシカ為テ爾様御采明相
 成宜末免許人等カ露國政府ヨリ取得シタル契約書ハ帝國政
 府ヨリ何レノ官憲カ其効力ヲ審査スヘキヤヲ閣下ニ通報スルト

MT 5,2,17,12 183

MT 5,2,17,12 182

25

共、早速閣下より彼等ツレテ之ヲ當該官廳ニ提出セシムル様
御勅誘の相成旨御附言相成致致候

樺太島ノ澳業ニ関シテ昨年八月七日附陸軍省告示第十五號

ヲ以テ樺太島澳業假規則ヲ定メ之ヲ同日ノ官報ニ公示致候

同規則第四條第三號ニ樺太島在任貴國臣民ニシテ從來貴

國官廳ヨリ澳業ノ許可ヲ受ケ現ニ該澳場ニ於テ自ラ澳業ヲ

営ムルニ對シテ管轄軍衙ニ於テ優先ノ詮議ヲ為スコトアルヘキ

旨ヲ規定致居候然ルニ實際上貴國利害關係者等カ右ノ規

外務省

定ノ適用ヲ受ケタル一モ之ナカリシハ全ク該利害關係者ニ於テ

通常手續ヲ履行セザリシ結果ト存矣「グラマレン」氏ノ代理人

「カビテム」プラソロフ「カ」捕虜ト為リタルノ事實ハ該當該官廳カ澳

業假規則ニ遵ヒ執リタル處分ヲ不法タラシムルノ理由ト為スニ足

ラス又該當該官廳カ「テンビー」氏ノ代理人ヲ拒絶シタルモ、如ク

御申越相成候得共帝國官憲ハ「~~テ~~」露國人ノ代理

人タルノ故ツ以テ「~~テ~~」
其ノ出右ノ拒絶シタルハ無之ヲ茲ニ斷言

致矣將ニ又日本官廳カ現ニ澳場ニ在リタル露國人等ノ建物

MT 5,2,17,12 185

MT 5,2,17,12 184

5-0837

0148

及漁具ヲ日本臣民ノ賣却セシムルカ為メ命令ヲ發布シタリト御
 陳述相成候^{即チ}事實ヲ誤リ居候入札ニ由テ正當ニ漁業
 權ヲ獲得シタルモノニ落札漁場ヲ完全ニ使用シ得ルヲ要スルカ故
 ニ會々其漁場ノ建物漁具等ヲ有スル第三者アルトキハ之ヲシテ
 相當ノ代價ヲ以テ右建物等ヲ落札者ニ讓渡セシムルノ規定ヲ
 設ケタルハ事實ニ有之矣而シテ右規定ニ準リ賣國人ノミナラス
 人^{諸國}ニ一律ニ適用スル次第ニ有之矣

外務省

樺太新領土ニ於ケル漁業ニ關スル事項ニ目下ノ所轄太民政署
 ニ於テ管掌致居矣事^々茲ニ閣下ノ御參考迄ニ申添矣右

御回答(旁)

本大臣ニ茲ニ重ネテ閣下ニ對シ敬意ヲ表シ候致具

MT 5,2,17,12 187

MT 5,2,17,12 186

5-0837

0149

cette
autorité ~~qui~~ qui examinera
la valeur de ces contrats.

La gazette officielle a publié, dans
son numéro du 7 août 1905, le règlement
provisoire relatif à la pêche de Sakha-
line sous le ^{la} no de notification No 13,
dont l'article No III, porte que les
navires russes résident en Sakhaline qui,
avant d'obtenir des autorités locales des
licences de pêche, les exploitaient
eux-mêmes ^{réellement} ~~effectivement~~ sur les lieux,
devraient jouir de la priorité de la
part des autorités militaires compétentes
s'il ~~ny~~ ^{en fait} avait aucun russe intéressé qui
ait pu profiter de cette disposition, ce
n'est que le résultat du fait que les
intéressés ne se sont pas conformés aux
formalités voulues. Le fait que le capi-
taine Prassoloff avait été fait prison-
nier, ne saurait être invoqué pour rendre
illégales les mesures que nos autorités
compétentes ont prises conformément au
dit règlement provisoire. En ce qui con-
cerne le fait que nos autorités compéten-
tes n'auraient pas admis le représentant
de M. Dobige, j'affirme qu'elles n'ont

MT 5,2,17,12

189

*○ Cette déclaration est
incorrecte, d'une très large mesure.*

que ce soit
jamais refusé d'admettre ~~qu'un~~ de
présenter sa demande, pour la raison qu'on
était représentant des sujets russes.
Votre Excellence a bien voulu en outre *me dire*
~~ce~~ que les autorités japonaises ont
publié certaines ordonnances pour ^{faire} vendre
aux sujets japonais les bâtiments ou
outils de pêche des russes qui se trou-
vaient sur place. [○] Il est vrai que les
autorités locales ont arrêté certaines
dispositions suivant lesquelles, les per-
sonnes tierces possédant par hasard des
bâtiments ou outils de pêche dans la pê-
cherie concédée à une personne déterminée,
devraient céder à cette personne les
bâtiments ou outils en question, ~~mais~~ ^{afin}
que cette dernière ~~soit~~ ^{puisse} ~~se~~ servir
profitablement de la pêcherie qu'elle vient
d'acquies. Toutefois, ^{il est à remarquer que} ces dispositions
s'appliquent tant aux japonais qu'aux
russes, sans aucune distinction entre eux.
Après la ~~cession~~ ^{cession} des
affaires de pêche dans la nouvelle pos-
session en Sakhaline entrent ^{quant à présent} dans la com-
pétence du Département civil de Sakhaline.
Veuillez agréer, Monsieur le Ministre,
l'assurance de ma haute considération

MT 5,2,17,12

188

Signé: Viscount Hayashi.

枝
抄
留

Traduction.

Tokio, le 31 Mai 1906.

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'accuser à Votre Excellence réception de la note ~~no 505~~ datée du 24 avril dernier, qu'Elle a bien voulu écrire au Marquis Salozzi en réponse à sa note du 13 du même mois au sujet des droits de pêche des sujets russes en Sakhaline, et dans laquelle Votre Excellence m'a exposé les motifs qui justifieraient, d'après elle, l'impossibilité pour eux de présenter leurs demandes aux autorités japonaises avant les enchères de pêcheries et m'a déclaré que si les droits que les Plénipotentiaires du Japon s'étaient engagés à Portsmouth à respecter ont fini par être violés, c'est uniquement parce que les autorités japonaises se sont précipitées dans l'arrangement de cette affaire. Votre Excellence a bien voulu ajouter qu'Elle s'empresserait d'inviter les concessionnaires russes à présenter ^{à l'autorité compétente} les contrats qu'ils ont obtenus du Gouvernement de Russie, dès que ^{le Gouvernement Impérial} lui aura fait savoir quelle

MT 5,2,17,12 190

5-0837

0151

明治廿九年六月一日接受

明治廿九年六月一日接受

書寫

別紙

大臣

3

明治廿九年

五月三十一日

周

年

日

政務局

明治廿九年六月二日

取調部

主任

次官

通商局

外

あな

裕田

送第 三。 號

陸軍大上寺内正毅殿

林外務大臣

樺太島漢業權之因スル為ニ後ノ申立ニ對シ

回答之送付ノ事ニ對シ申立ニ付

樺太島ニ於テ先人遺業權ノ範圍ニ關シ最モ妥當ニ

外務省

使ヨリ申立ニ付テ之ヲ申立ノ件ニ對シ其ノ妥當ノ協議ノ上回答

可致様ニ對シ申立ニ付テ又該用事ノ内容ニ備及セザルノ

範圍内ニ於テ亦其ノ妥當ノ回答ニ對シ候ハ被仰ル由知申

候也

別紙 外國使館ニ付テ之ヲ送付スル旨ニ付テ之ヲ送付スル旨

MT 5,2,17,12

192

MT 5,2,17,12

191

陸軍省告示第十五號
樺太島澳業假規則左ノ通定ム

明治二十八年八月七日

陸軍大臣寺内正毅

樺太島澳業假規則

第一條 樺太島各領中同島に於ケル鯨、鱈及鱒、澳業ハ本規則ニ依リ澳業ノ許可ヲ受ケル者、於テ之ヲ管ヒコトヲ得
海豹島ノ海獸獵ハ之ヲ許可セザルヲス

第二條 澳業ヲ管ヒキ場所ニ其ノ澳業ヲ許可シタル澳場限ル
澳業ヲ許可スルキ澳場ハ露國官廳ノ公示シタル千九百二十年度
澳場區域表、掲ケルヲ及千九百二十九年露國官廳ノ長期

ノ特許ヲ其ノ年々依リ再許可シ一年毎之ヲ為スモノトス但
シ明治二十八年及二十九年、澳業ニ一免許期間トシテ之ヲ許可
スルヲトス

第三條 澳業ヲ許可スルキ澳場ハ各澳場毎ニ澳業料ヲ競争ス

札ニ附シ落札者、其ノ澳業ヲ許可スルヲトス其ノ入札執行ノ日時
場所(管轄軍衛) (樺太島、管轄スル最
高等司令部以下同)ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ競争入札ハ澳業ニ経験アル帝國臣民ニシテ管轄軍衛
於テ相當ノ資格アリト認めル者ニツキ之ヲ行ヒ同軍衛ニ於テ豫
定スル金額以上、最高額入札ヲ為ス者ヲ落札者ト定ム但シ同
額ノ入札者二人以上アルトキハ抽籤ニ依リ落札者ヲ定ム

第四條 澳業ヲ管マロトスル者ニテ左ノ各條ノ一ニ該ル者ニ管轄

軍衛之ニ優先ノ論議ヲ為スコトアルヘシ

一帝國臣民ニシテ露國官廳より一定ノ澳場ニ於テ明治二十六年
度ノ澳業ノ許可ヲ受ケタル者

二帝國臣民ニシテ從來露國官廳より澳業ノ許可ヲ受ケタル露
國人ノ澳場ヲ借受ケ澳業ニ関スル建物其ノ他ノ財産ヲ現
ニ該澳場ニ有スル者

三樺太島在住露國人ニシテ從來露國官廳より澳業ノ許可ヲ
受ケ現ニ該澳場ニ於テ自ラ澳業ヲ営ム者但シ第一條ニ該
當スル澳場ニツキテハ此ノ限ニアラス

第五條 澳業ノ許可ヲ受ケタル者ニ澳業ヲ管マロトスル澳場澳

種及網敷使用澳船隻數澳夫人員ヲ記載シ管轄軍衛
出願スル

出願スル

前項ノ願書ニ本規則第三條ニ依ル者ニ地方廳調製セル營業
及身元証明書本規則第四條第一條ニ依ル者ニ澳業ノ許可ヲ証
スル書類及地方廳調製セル身元証明書同條第二條ニ依ル者
ニ地方廳調製セル身元証明書澳場借受契約書及澳場
於ケン建物其ノ他財産目録書同條第三條ニ依ル者ニ澳業ノ許
可ヲ証スル書類及澳場ニ於ケン建物其ノ他財産目録書ヲ添附ス
ルコトス



漁業ノ許可ヲ証スル書類及漁場借受現物書ニ正副二通ヲ要ス
第六條 漁業ノ許可ヲ受ケルキニ管轄軍衛ノ定ル所ニ依リ漁業料ヲ納付スヘシ但シ競争ノ札ニ依リタル者ハ漁業料全額落札金額ニ依ル

前項漁業料ノ本規則ニ違反シ若シ不正ノ行為アリタル者ハ漁業ノ許可ヲ取消スル場合ト雖之ヲ免セルルコトナレ但シ軍事上ノ必要ニ依リ漁業ノ停止ヲ命ズルキニ其ノ漁業料ノ一部又ハ全部ヲ免セルルコトナレ

第七條 漁業ノ許可ニ他人ニ讓渡又ハ貸渡スルコトヲ得ス
第八條 河川ノ全部及河川ノ河口前面ノ水域ニ其ノ河口より左右海

岸ニテヨリトシ間懸ニ鱈漁ヲ為スコトヲ得ス

第九條 鱈鱚及鱈漁ノ為使用スヘキ漁具ニ建網及引網トス

第十條 各漁場ノ使用スル建網ニ統一統ニ限ルコトナレ

各漁場ノ用ルル各網間ノ左右間隔ニ鱈鱚漁ニ在リテニキロメ

一トシ鱈漁ニ在リテニキロメ一キロメトシ半キ下ルコトヲ得ス

第十一條 漁業ニ従事スル船舶ニ特ニ許可スル場合ノ外露國人ヲ

乘込マシムルコトヲ得ス

第十二條 漁業者及其ノ使用人ニ管轄軍衛ノ許可ヲ受ケテ同島ニ於

ケル樹木ヲ伐採シ山林ヲ傷害スヘキナレ

第十三條 漁業者及其ノ使用人ノ本規則ノ外管轄軍衛ノ定メタル



規則及命令ヲ遵守スヘキトス

第十四條 管轄軍銜ノ於テ軍事上必要ト認ル場合ニ澳場區域ノ

一部又ハ全部ニ對シ澳業ヲ停止シテ命令スルコトアルヘシ

第十五條 本規則ニ違反シタル者ニ管轄軍銜ノ於テ澳業ノ許可

ヲ取消スノ外軍令ニ依リ處罰スルコトアルヘシ

第十六條 樺太島所在之人ニシテ主人以外ノ者ヲ使用スル澳具ヲ以

テ澳業ヲ為ス者ニハ本規則ヲ適用ス

第十七條 昆布採取業其ノ他第一條以外ノ澳業ヲ為コトスル者

ハ前諸條ノ規定ニ依リ管轄軍銜ノ定ル所ニ從ヒ料金ヲ納附

シテ鑑札ヲ受クヘシ

附則

第十八條 本規則第四條ニ依リ澳業ノ許可ヲ受テ得ル者ニシテ

本年及明治二十九年澳業ニツキ出願スル者ハ本年九月五日迄

願書ヲ差出スヘシ

前項出願期日ニ願書ノ到着スヘキ日ヲホス

第十九條 本規則第五條願書ニ在リコトウラフ樺太民政署

差出スモノトス

MT 5,2,17,12

200

MT 5,2,17,12

199

大臣

通商局

取調課

陸

秘

政務局

小村男爵の訪問に其所見ヲ叩キタルニ同男爵ハ大要左ノ如キ意
見ヲ垂示セラレタリ

小村男爵ハ講和談判に際シ滿韓償金割地等戦争、
直接ノ關係ヲ有スル重要問題、外尚ホ戦争ニ直接ノ関
係ナキ沿海州漁權問題ヲ解決セムコトヲ努メタリ而シテ講
和談判ノ機ニ乘リ完全ナル漁權ヲ確保セムカ為メ考慮ヲ
旋ラシタルニ拘ラス遂ニ露國政府ヲシテ單ニ我臣民ニ漁業
權ヲ許シセムカ為メ協定ヲ為スヘキコトヲ約セシメタルニ過
ルハ遺憾ナレトモ我ノ目指ス所ニ終始重大ナル沿海州ノ漁
業權ニアリタルニ由リ露國全權ヨリ其割讓地ニ於ケル露
人ノ漁業權ヲ確認セムコトヲ請求スル場合ニ於テ我ニ直
ニ之ニ應スルノ覺悟ナリキ但シ萬一露國全權ニ於テ南樺太

MT 5,2,17,12

202

MT 5,2,17,12

201

漁業權ニ氣付カカリシヲラニハ我ニ取り最モ幸ナルヘカリシカ故
：我ニ熱心ニ彼等カ該漁業權ニ語及セサラムコトヲ祈望セ
リ然レトモ一旦彼等此事ニ思到リ其確認ヲ請求シタル以
上ニ之ニ應スルノ外ナレト信シ断然同意ヲ表明シタルナリ蓋シ
我若シ之ヲ拒ムニ於テハ彼ニ其ノ幸ウシテ我ニ為シタル漁業
協約締結ノ約束ヲ撤回スルニ至ルノ虞アリタレハナリ此ノ如ク
条約文言ノ解釋論トシテハイザ知ラス全權當時ノ意思ニ
明白ナリトモ尤モ漁業權ニ財産權ニ非ストリ理由若クハ特
許契約ノ一評我公益ニ及シ無効ナルカ故ニ該契約全部
無効ナリトノ理由等ヲ以テ南樺太露人漁業權確認ヲ

MT 5.2.17.12 203

拒絶スルコトハ法律論トシテハ夫レ或レ為レ得ヘキコトナラム乍去
沿海州漁業權確保ノ大問題ヲ眼前ニ控ヘ居ル今日
斯ル法律論ヲ以テ本件ヲ解決スルハ得策ニ非ス依テ前
記露人漁業權ニ関スル特許契約ニ其ノ我公益ニ及ス
ル条件ヲ削去リ其殘部ヲ承認スヘキモノナルヘシ尤モ「デニビ
」ノ特別^許契約ハ戦局大ニ發展シタル後更ニ其期限ヲ
延長シタル由ナレトモ此延長ニ惡意ヲ以テ為サレタルモノナリトノ
理由ヲ以テ右建~~條~~之ヲ承認スルヲ要セサルヘシ云々

五月廿一、
おきん

MT 5.2.17.12 204

参考書

日露講和談判筆記附録

非正式會見要録 (第百六十頁及第百六十一頁)

ウヰツテ氏曰ク「草案第二ノ個條ニ於テ讓渡地ノ住民ハ二個
年以内ニ不動産ヲ賣却シテ撤退スルニアラハレハ日本政府ノ
都合ニ依リ日本臣民ト見做ストノ規定ハ酷ナリ領土ノ割讓
ハ之ニ由リテ該領土ニ於ケル住民ノ私權ニ害ヲ及ホサナルコトト
ナスニアラサレハ公平ヲ缺クフラン只領土ニ於ケル主權ヲ移轉ス
ルノ結果新主權者タル日本國ノ法律法權ニ服従スル以
上ニ既有ノ權利之ヲ尊重スルコトト致シタシ又同島ニ現
在年限間官廳ト特約ヲ結ビテ水運業ノ特權ヲ有ス

MT 5,2,17,12 205

ルモノアリ尤モ此等特權ヲ有スルモノハ本頁ノ記臆スル所ニテ
ハセミオノフ高會外一ニミテ極メテ少數ナレハ實際ニ於テハ
左シタル大事件ニハアラサルニ免ニ南現住民ノ是迄有シ居
ル所有權及營業權ハ主權ノ移轉ニ係ハラス之ヲ尊
重スルコトト為ササルヘカラス又本條文中 *de l'incorporation dans*
l'empire par la voie administrative (政事上又ハ行
政上ノ權能ヲ失ヒタル)トハ如何ナル意義カ
小村男曰ク「是ハ犯罪ニ因リ權能ヲ完全ニ享有セサル
モノヲ之フ
ウヰツテ氏曰ク「此等ノ權能不完全ナル者ヲ南薩哈連

MT 5,2,17,12

206

ヨリ放逐セラルルコトハ不得トスルモ此等ノ者が該地域内
 有スル所有權之カ為メ侵サルコトナカラシコトヲ要ス
 デニソン氏説明シテ曰ク一體日本ニ於テ外國人ノ土地所
 有權ヲ許ササルヲ以テ本案ノ如ク規定セントスルナリ是レ日
 清講和條約ニ於テ臺灣ニ関シ規定シタル所ト同一ナリ
 小村男曰ク日本ノ法律ニ服從セシムルコトノ條件ノ下ニ於テ
 該地ニ存在スル露國臣民ノ所有權及營業權ヲ尊重
 シ且權利ヲ缺ケル者ニ對シテモ所有權ヲ侵害セサルヘキコ
 トヲ約スルハ差支ナキヲ以テ左様ニ取計ハム

集一編

MT 5,2,17,12 207

5-0837

0150

野村鎮事調査

日本領樺太長期借入、海區數、海獲

言及其價格、概算

明治辛巳年度

借入 海區數 海獲

セシヨノフ商會 二 三七一五〇ハ

ビリテ 二 二四〇八〇

クラマレンヨ 一 一〇六ニ三四

計 四 七二八、六一二

外務省

右海獲算計對其概算價格 八五七〇、二三

MT 5.2.17.12 209

MT 5.2.17.12 208

5-0837

0151

電送第一三四の號
明治39年6月2日 午後12時5分

吉野
中野留片使
米方主

十四一

光吉留片使

構太三控ル 振品臣氏 漁業控ノ件ハ 法電

第十一号ノ 始末ニ 依リ 振品臣氏ノ 意謂

控ル 尤モ、成立ト 存立ト 何カセサルシ 以テ 平

外務省

和為約力 十條ニ 依リ 保護シ 受ル 手控

和方ヤ 振品臣氏ニ 由テ 手控ル 我々

休中 奉ル 我々 回答ニ 付 振品臣氏ト

法收シ 重又ツ、アリテ 未ル 中 振品臣氏 控ル 件

頃 亦、十條ノ 振品臣氏ノ 意ニ 依リ 未ル 端

及、七ノ 隨テ 右 振品臣氏ニ 付 テ、未ル 中 振品臣氏 控ル 件

意見 照會ニ 付、入 照會 照會 照會 照會

MT 5,2,17,12 211

MT 5,2,17,12 210

257

5-0837

0162

文書課長

松島

明治九年六月十二日

別紙

明治三十九年六月八日

同 六月十二日

同日

別紙

大島 取調課

主任

通商局

機密送第97ノ號

次官

林有造

陸軍大臣寺内正毅殿

林有造大佐

樺太島に於ける外國人舊漁場ノ財産ニ関し區取寄公使

ヨリ提出セル別紙覚書ニ依りハ又セテ「デビ」西氏ノ漁場ニ

於ける建物漁具等ハ之ヲ日本人ニ傳授スル其契約書中ニ該

外務省

財産ハ漁業者ノ妨害ヲ加ヘサルモノナル旨掲記シアリタルニ拘ラ

没收セラレタル板又ハ又「ク」氏ノ漁場ヨリ曩ニ没收セラレタル財

産ニ付テハ去五月十四日同島官憲ヨリ追テ一層詳細ノ取調アル迄

其没收ヲ取消ス旨同氏ノ代理人ヨリ通知セラレタル板ニ有テハ

右ハ余ヲ真正ナル事實ニ有テハ或者「ク」氏ノ代理人ニ對シ

テ没收セラレタル板ノ事案アリトシテ在ル旨令列ハ辨明スル條ノ

規定ヲ遵守スル結果ニ有テハ又セテ「デビ」西氏ノ漁

MT 5.2.17.18

213

MT 5.2.17.18

212

5-0837

0153

<p>抄ヨリ没收セラレタル財産ニ對シテモ同様取消ノ通チラ没收セタル</p>	<p>次第有之ニテ或若シ然ラストスハ目シテ軍令ノ規定ニテ没收</p>	<p>セラレタル財産ニ對シテ本條ノ二者ノ旨ニ於テ上ノ旨ニ於テ設ケタルハ</p>	<p>思ヒテ如何ナル理由ニ由テタルモノニテ或將又前記第一項ノ旨ニ</p>	<p>カノノフ「テビ」兩氏ヨリ建物道具等ヲ貸借セル日本人トシテ</p>	<p>札ノ結果漁場ヲ取得シタル者人ニテ或又ハ金ヲ換取シテ業</p>	<p>ニ對シテ關係ヲキキ者有之或ハ前記第一項ノ旨ニ對シテ</p>	<p>外務省</p>	<p>津細ノ其通リルシ没收セタルモノハ其旨ニテ且没收セタル</p>	<p>本條ノ旨ニ對シテ將來沒收ノ後ハ其旨ニテ且没收セタル</p>	<p>留傳ノ其條件ニ對シテ其旨ニテ且没收セタル</p>	<p>大正有之ノ旨</p>	<p>其旨ニテ諸點ヲ檢査スルニ至ルモ其旨ニテ且没收セタル</p>	<p>別紙 本公使提上ノ實録寫添附ノ下</p>	<p>没收及賠償ノ旨</p>
---------------------------------------	------------------------------------	---	--------------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	------------	-----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------	---------------	----------------------------------	-------------------------	----------------

MT 5,2,17,12

215

MT 5,2,17,12

214

大臣

次官

政務局

通商局

御文

取調課

あせ

去ル二月中「ゴサコフ」氏一在ナガレン日本官憲ノ發布シタル
 規則ニ就キ如藤閣下ノ注意ヲ促セリ而レテ該規則ノ規
 定ニ依レハ同嶋ニ於ケル露國借區者ノ財産ハ之ヲ他ニ搬
 去スルカ若クハ賣却セラルヘカナルモノニテ露國人カ右ニ様ノ方
 法ニ依リ其ノ財産ヲ處分セルトキハ澳場新借區者ノ妨害
 ト為ラカルモノヲ除ク外其ノ財産ヲ没収セラルコトアルヘキモノト為
 セリ

「モノフ」デニビー「西氏」其ノ財産（建物、澳具等）ヲ日本
 人ニ貸貸シ其契約書中ニ該財産ハ澳業者ノ妨害

外務省

ヲ加ヘサルモノナル旨ヲ掲記シアリ

然ルニモ物ヲス同氏等ノ前記財産ハ他ノ露國借區人「ラ
 マレロ」ノ所有財産ト均シク没収セシタリ

然ルニ五月十四日附ヲ以テサカレン官憲ハ「クラマレニコ」氏ノ代理
 人ニ向ヒ追テ一層詳細ノ取調アルマテ同氏財産ノ没収ヲ取
 消ス旨ヲ通知シタリ

右日本官憲ノ諸行為タル一方ニ於テサカレン嶋ニ於ケル露
 國特許漢區問題ノ未ク決定セシカルニ由リ早計ニ失シタルヲ
 ト認メラレ他ノ一方ニ於テ日本官憲ノ右命令及取消命令
 ハ露國借區者ノ利益ニ重大ノ損害ヲ與フルモノナリ何トナレ

MT 5,2,17,12

217

MT 5,2,17,12

216

ハ是レ右借込者等ツシテ帝ト如何ナル程度ニテ自己ノ權利
ヲ享有シ得ヘキヤヲ知ルコト能ハザラシムルモシヤレハナリ

外
務
省

MT 5,2,17,18 218

5-0837

0155

要
及
記

30/5/06

振込
債
本
者
た
ら
し
交
付

Au mois de février, M. Kozakow attira l'attention de S. S. M. Kato sur un règlement qui avait été publié par les autorités japonaises de Sakhaline, et aux termes duquel les propriétés de concessionnaires russes dans cette île, devaient être ou bien transportées ailleurs, ou bien vendues; la propriété dont les russes n'auraient pas disposé de ces deux façons, était menacée de confiscation, à l'exception de celle qui ne gênerait pas les nouveaux locataires des pêcheries.

M. M. Semenov et Denbigh louèrent leur propriété (bâtisses, outils de pêche etc.) à des japonais, stipulant dans le contrat que ces propriétés ne gênaient pas les pêcheurs.

Néanmoins, leur propriété sus - in -

MT 5, 8, 17, 18

220

5-0837

0167

diquée fut confisquée, aussi bien que celle appartenant à un autre concessionnaire russe Kramarenko.

Cependant, à la date du 14 Mai, les autorités de Sakhaline firent savoir au fondé de pouvoirs de M. Kramarenko que la confiscation de ses propriétés avait été révoquée, en attendant une investigation plus détaillée.

Les actions des autorités japonaises paraissent, d'un côté, prématurées, vu que la question des concessions russes de pêcheries dans l'île de Sakhaline n'a pas encore été décidée; d'un autre côté, ces ordres et contre-ordres des autorités japonaises portent un grave préjudice aux intérêts des concessionnaires russes, car ils ne leur permettent pas de savoir jusqu'à quel point ils peuvent, à chaque moment donné, jouir de leurs droits.

MT 8,2,17,18

219

5-0837

0158

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

加藤外務大臣會談要領題之ヲ抄録

加藤外務大臣第三回接見 (明治三十九年二月日)
要録一節

コガコフ

南部樺太、於ケン「デビ」并「^{キヤク}ニフ」兩人、関スル既
得漁業権侵害事件、露國政府、意見、依「^{キヤク}」各約
違反、^{キヤク}貴國政府、該事件、関スル御意向如何
降承致シケン

加藤外務大臣

御陳述ノ事件、當時陸軍官憲、於テ事實取調中
ナリ右取調了、上「^{キヤク}」報告書ヲ提出スヘキ答テ「^{キヤク}」報
告書ヲ受領シ、後相當ノ順序ヲ經テ御返答致ス

外務省

ヘシ

コガコフ

降承セリ尚「^{キヤク}」同地、於ケン「^{キヤク}」マ「^{キヤク}」コ「^{キヤク}」既得漁業権、
関シテモ同一様ノ事件アリ然レモ未「^{キヤク}」書類ノ全部到
達「^{キヤク}」居「^{キヤク}」不整頓ナルヲ以テ御照會セラル「^{キヤク}」何レ書類整
頓次第公文ヲ以テ御照會致スヘシ

加藤外務大臣

宣シ

MT 5,8,17,18

222

MT 5,8,17,18

221

5-0837

0170

加藤外務大臣第五回接見(明治三十九年
二月十五日)要録一節

代理公使更に曰く

「テムビ」氏漢業権問題、如何處決せしむや

大臣曰く

目下陸軍官憲に於て取調中なり

代理公使曰く

本件ノ解決延引る事態重大に立至ルニ

大臣曰く

斯ノ如キ事件に於ては調査ノ為、時日ヲ要スルハ免ルハカ
ラス我々之ヲ待ツノ外ナシ

外務省

代理公使(別紙ハ郵電信ヲ示シテ)曰く

本件に於ては此ノ電信に接セリ斯ノ如キ處分ハ決シテ私
人ノ所有權ヲ尊重スル道ニアラス

大臣曰く

此電信一時當方ニ預リ講究シ置クニ

MT 5,2,17,12

224

MT 5,2,17,12

223

乙 郵便信

(三十九年一月十七日 コルカコフ 發電)

函 館

コルカコフ

セモノフ商會

民政長官

落札人、建物其他財産ヲ貸付クルハ規則ニ依ルニ
 建物其他ノ財産、換期開始前ニ除去シ又ハ落札者
 ニ譲リ渡スヘシ若シ右期限内ニ除去セス又ハ譲渡ナルトキ
 一軍令十八號三條ニ據リ無償ニテ官ノ所有ニ歸スヘシ
 (本電信ノ写ニ函館ヨリ郵送スル一月二十八日在東京露
 國公使館ニ到達ス)

外務省

MT 5.2.17.12 225

熊本民政長及閣下ノ質疑事項要領

外務省所調洋ニ於テハ或筋ヲ左ノ通信ニ接シヨリ

一「セムノフ、デンビー」両氏ノ澳地ニ於テハ建物澳具等之ヲ自本人ノ
貸貸ニ其契約未中ニ該財産ノ澳業者、病害ノ加ハルモ
ノナル旨揚記シアルニ拘ラス没収セシキリ

二「セムノフ、デンビー」ノ澳地ヨリ没収セシタル財産ニ付テハ去五月十日
同島官憲ヨリ追テ一層詳細所調ニ追其没収ヲ取消ス
肯同氏ノ代理人ニ向テ通知セシキリ

右ノ通信ニ関シ左記ノ諸點疑似ニ屬スルヲ以テ可成秘密ニ真正ノ
事實ヲ了知シタ

一「セムノフ、デンビー」ノ代理人、對スル没収取消ノ通知事實アリトスル右
ハ軍令第十七號第三條ノ規定ヲ廢止シタル結果ナリヤ

外務省

二「セムノフ、デンビー」両氏ノ澳地ヨリ没収セシタル財産ニ對シテモ
前同様没収取消處分ヲ為シタル次第ナリヤ若シ然ラズトスレ

ハ同レノ軍令ノ規定ニ基キ没収セシタル財産ニ際シニ若
間ニ以テ如何ノ取扱上ノ差カヲ設ケタルハ果シテ如何ノ理由ニ
出テモシナリヤ

三「セムノフ、デンビー」両氏ヨリ澳地建物等ノ賃借カシ目人ト
ハ競争入札ノ結果澳地ヲ取得シタル本人ノコレナリヤ又ハ全
ク没収地ノ業務ニ関係スル第三者コトナリヤ

四「セムノフ、デンビー」ノ代理人ニ向テ一層詳細所調ニ追没収處分ヲ
取消ストク通知ヲ為シタル一旦没収處分ヲ取消シタル後
將來所調ノ結果更ニ之ヲ没収スルコトスレハ肯テ留保シタル
條件附取消意義ニ解スヘキコトナリヤ

ア、此の如き扱ひに當りては、被テシムル事、其の如何なる理由を以テ
タルモノナリヤ

三、セメツス「エビ」は、其の漁具、其の漁法等、其の漁場は、日本人トハ
競争し入れ、其の漁場は、其の漁具、其の漁法等、其の漁場は、日本人トハ
該漁場、其の漁具、其の漁法等、其の漁場は、日本人トハ

四、ク、コレは、其の漁具、其の漁法等、其の漁場は、日本人トハ
ラ、其の漁具、其の漁法等、其の漁場は、日本人トハ
外務省

五、此の如き扱ひに當りては、被テシムル事、其の如何なる理由を以テ
タルモノナリヤ

MT 5,2,17,18 231

MT 5,2,17,18 230

禁国捕り

明治三十九年 五月十二日 起草
同 月 日 發遣

兼代

主任

六月八日熊谷長官談話要領

第一點、付テハ特ニ政府ヲホムル下ニ遊ケタレドモ ^{前報} 決テ是ヨリ結合スルハ

軍令ヲテハ稀ヲ三至ハ之ヲ廢止シタルモノトハサル下ニカチ

第二點、カラシムル財産トシテ「^{前報}」ノ財産トシテ間ニ取扱上ノ差カヲ

放テタルモノアリヤノ間ニ對シテハ決シテ此ノ兩氏ノ舊道ヲ去リタル財産ハ

外務省

軍令ヲ人稀ニ修ルハ文ニ依リ官有財産トナリタルモノテハ稀トナリ且

該三區ノ他ニ取得シタル自本人漁業者ヲシテ前記ノ財産無償保管

願スル者ナラシメ之ニ及ビ且、材料使用ノ許ノモトスル者ナリトモ、其例

ヨリ異議アリタル者ハ暫ク願書ヲ撤消セシムル下ニカチミタルヨリ左ノ事

以テ以テ後述ノ如クニ「^{前報}」ノ事等之ニ付

第三點、フ「^{前報}」ノ事等ニ依リ建物漁具大等ヲ貸借セル日本人トハ競争入札

ノ結果區別ヲ得ルシタル漁業者本人ノ下ニ左ノ漁業者ハ以テ三十八年

MT 5,2,17,12

233

MT 5,2,17,12

232

度漁業開始の當内「セム」に「セム」は長ノ財産ヲ使用スルニ非サハ家

際漁業ヲ開始スルニ得ル事情アリシカガモ「セム」に「セム」ハ代

理人ヨリ其財産ヲ貸借シタルモノト云フ在リテ「セム」ハ長ノ命ヲ承

テ三條ノ規定ニ依リ官有財産ト考テタルモノトモセム「セム」ハ代

人ハ今至ルモ猶其官有財産ニカノ如ク之ヲ借貸スルコトアリテ其

ニ付テハ様大臣政署者亦之ヲ黙認シ「セム」ハ現存アリニ

中點 正償没収を以テ取消トシテ云海を以テ「セム」ハハカス

外務省

單ニ日本漁業者ヲシテ財産を借貸スルコトケシタルノ事トス

ルコトハハカノ條件附キ以テ謂フベキモ非テ其根拠見エリ

MT 5,2,17,12 235

MT 5,2,17,12 234



おのり

稿

林外務大臣閣下

ゴエー、バクメテフ

以書翰致啓上伏陳者本年五月二十日付申五回号
貴翰確々受領汝が汝書翰ニ於テ閣下一九〇五年

八月七日官報ニ於テ公布せしむ陸哈噠澳地ニ実効規
則申甲申申三ノリ以等申上汝等免許人ニ汝規則ニ定
ムルニ形式ニ遵據セリシカ爲メ在陸哈噠ノ官憲カ力ト
臣民、汝等ノ人ノ澳地ヲ貸下ケルニ之レ汝等官ノ當然ノ權
限ニ属スルヲテトノ以意見ヲ并ニ汝等且汝等臣民ノ代理
人ノ其法ホリ提出スルカオノ雷ヲ拒絶セリシムト年之又者
澳地ニ存スル財産売却ヲ命ル汝等現出ニ汝等ノ人ノ對スルト

MT 5,8,17,12

237

MT 5,8,17,12

236

5-0837

0178

均し日人とも同大スルコトハ附言あり

右の事示あり閣下ハ言見、對シ、^{同意}中使ナキ在担スルコト

リハカニ遺憾ハ流ス此ハ存之支お記ノ規則一九〇五年

八月七日撤言スルハ本和条約ノ調印ハ先コト一箇月時敷

於テ公布セラルタルモミシテ右条約ハ據リ、^{中使}中使ナキ在担スルコト

薩哈連島ノ本節ヲ日本帝國政府ハ讓與スルハハ讓與

十月十日即後条約批准ノ日ハ於テ始メテ既成事實トスル

外務省

至モミシテ此時ハ引込ニ支致ハ然然ハ確定ハ終ラシムルコト

思量スルコトナリシモノハ有之且抗敵ハ有ルコトハマシムル

テ調印ヤラシムルハ体致決定者ハ據リ、單ニ一部中止セシムル

ハ過キナリシモノハ有之支致ハ、^{中使}中使ナキ在担スルコト

布セシムルハ規則ヲ知リ、且、^{中使}中使ナキ在担スルコト

事セカリシ時ハ於テ之ハ通檢スルコトヲ命ズルハ不能ク責ムルモ

ノ、^{中使}中使ナキ在担スルコトハ規則中第十八条ハ據リ、^{中使}中使ナキ在担スルコト

MT 5.2.17.12

239

MT 5.2.17.12

238



ホリ控出スヤ 郵局トシテ一九〇五年九月五日 郵局本館
ノ寄附シテリ日シテ且中和状態ニ未定カラリシヨリ指
定済石文

生後子臣氏ノためナル代理人ニ薩合連ノ右書ニ其法ホリ
控出スルニ付之ヲ妨害ヲ交ケタルコトナリシハ全然正確ニ依
ニ於テ其書本使ノ四月廿日付第二〇二号松崎中ニ海
及波金且「デビ」氏ヲ兼済ニ事ニ本使ニテ確言

外務省

津事案、控シハ日友友室ノ交付シタル 旅券ヲ帶有シタル
カコウスウニ向ケ用ノ 派達ニシテ使用人トシテモ之ヲ 渡島ニ

上陸スルコトヲ 拒絶カシシモト在事主之カ方メ「デビ」
ノ自己ノ為許諾 案ニ 薩合連 控シタル 實際ノ 在様

日 爲地許ノ 財産ヲ 担保受人ニ 売却スルコトヲ 命ズル 規程

ニ 設令 派規 案 全代 薩合連 氏ノ 著眼 点ニ 在リ

七

MT 5.2.17.12

241

MT 5.2.17.18

240



6

任氏之露如也臣氏存之完全其、陸軍に信し
 且財産権の供えんは多支持日渡セルルヤ、幸昌改
 新ノ所東ノ^{保護}海島立和ヒ、地域ヲ於テ海島臣氏
 セメノ及ヒヒテヒ、^{海島}及ヒヒテ^{海島}ノ^{海島}権
 利ノ露島政府ノ^{海島}彼等、堂下ケルル^{海島}漁場ヲ成年限官陸
 軍シルノ権利ヒシテ^{海島}権利一九〇五年十月、競年ノ札
 在、^{海島}漁場カ他人ノ^{海島}堂下ケルル時、^{海島}侵奪セシタル^{海島}
 外務省

外務省

右競年ノ^{海島}^{海島}一九〇五年八月七日、^{海島}規則ハ

子^{海島}和^{海島}年^{海島}十^{海島}条ト^{海島}お^{海島}案^{海島}シ^{海島}ル^{海島}故^{海島}、^{海島}陸^{海島}規^{海島}則^{海島}ノ^{海島}産^{海島}出^{海島}

中^{海島}部^{海島}漁^{海島}無^{海島}ノ^{海島}日^{海島}以^{海島}年^{海島}不^{海島}正^{海島}ニ^{海島}シ^{海島}テ^{海島}且^{海島}漁^{海島}無^{海島}地^{海島}域^{海島}ニ^{海島}お^{海島}直^{海島}接^{海島}ノ^{海島}モ^{海島}ト

然^{海島}リ^{海島}タ^{海島}ル^{海島}モ^{海島}テ^{海島}、^{海島}漁^{海島}規^{海島}則^{海島}ハ^{海島}子^{海島}ノ^{海島}条^{海島}ハ^{海島}露^{海島}島^{海島}政^{海島}府^{海島}ノ^{海島}恒^{海島}永^{海島}堂^{海島}下^{海島}ケ^{海島}シ

且^{海島}漁^{海島}場^{海島}ヲ^{海島}陸^{海島}軍^{海島}ニ^{海島}海^{海島}島^{海島}ヲ^{海島}交^{海島}ス^{海島}ル^{海島}地^{海島}域^{海島}ハ^{海島}一^{海島}定^{海島}ノ^{海島}海^{海島}島^{海島}ヲ^{海島}付^{海島}シ^{海島}ル^{海島}モ^{海島}ト

同^{海島}ノ^{海島}中^{海島}部^{海島}ノ^{海島}定^{海島}ム^{海島}ル^{海島}一^{海島}定^{海島}ノ^{海島}款^{海島}ヲ^{海島}附^{海島}付^{海島}ス^{海島}ル^{海島}モ^{海島}ト^{海島}規^{海島}定^{海島}ス^{海島}ル^{海島}モ^{海島}ト

此^{海島}ノ^{海島}被^{海島}奪^{海島}ス^{海島}ル^{海島}漁^{海島}無^{海島}ノ^{海島}所^{海島}ハ^{海島}一^{海島}定^{海島}ノ^{海島}權^{海島}利^{海島}ニ^{海島}シ^{海島}テ^{海島}且^{海島}年^{海島}十^{海島}条^{海島}ト^{海島}

MT 5.2.17.12

247

MT 5.2.17.18 246

テは法^テミシクシテ法^テ権利^テの日^日切^切支^支案^案ノ定^定定^定ル^ル規^規矩^矩ト^ト是^是ナル^{ナル}ト^トアル^{アル}ハ
 確^確定^定ノ^ノ償^償下^下料^料ヲ^ヲ納^納付^付ス^スル^ルハ^ハ其^其ノ^ノ由^由リ^リニ^ニ由^由リ^リト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ
 又^又以^以此^此ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ彼^彼ノ^ノ規^規矩^矩ヲ^ヲ侵^侵害^害ス^スル^ルハ^ハ不^不可^可シ^シク^クナ^ナル^ル也^也

248

本^本ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ其^其ノ^ノ由^由リ^リニ^ニ由^由リ^リト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ
 本^本ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ其^其ノ^ノ由^由リ^リニ^ニ由^由リ^リト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ
 本^本ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ其^其ノ^ノ由^由リ^リニ^ニ由^由リ^リト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ

MT 5.8.17.12

日^日切^切支^支案^案ノ定^定定^定ル^ル規^規矩^矩ト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ
 日^日切^切支^支案^案ノ定^定定^定ル^ル規^規矩^矩ト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ
 日^日切^切支^支案^案ノ定^定定^定ル^ル規^規矩^矩ト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ

外務省

249

本^本ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ其^其ノ^ノ由^由リ^リニ^ニ由^由リ^リト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ
 本^本ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ其^其ノ^ノ由^由リ^リニ^ニ由^由リ^リト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ
 本^本ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ其^其ノ^ノ由^由リ^リニ^ニ由^由リ^リト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ
 本^本ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ其^其ノ^ノ由^由リ^リニ^ニ由^由リ^リト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ
 本^本ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ其^其ノ^ノ由^由リ^リニ^ニ由^由リ^リト^ト是^是ノ^ノ規^規矩^矩ハ^ハ六月^{六月}七日^{七日}ノ^ノ規^規矩^矩ハ

MT 5.8.17.12

8

吾人ノ権利ヲ海島為海(昔)日証(之)ニシテナルヲ否(ヤ)ト

シテ決定セントスル如使ノ意見ニ答下リヨ言アランコトヲ波

希望オス我上ノ以問題ニシテ一解安ヤルルニ於テ(細目)

ノ兵ニ全ク論理上論断ニシテ決スルコトヲ以テ(其)困難

ヲ見テハトシ存ナ

以上ノ理由ニ依リ(キ)東清(支)事(業)ヲ我(我)國(國)政府(府)ニ於テ海島(島)友(友)室(室)ト

セリコト及(及)テレヒ(ヒ)シ(シ)ラ(ラ)レ(レ)コト(ト)及(及)ビ(ビ)リ(リ)ク(ク)シ(シ)決(決)ス(ス)リ(リ)ア(ア)ル(ル)契(契)約(約)ニ

外務省

奉(奉)還(還)無(無)事(事)ノ(ノ)既(既)以(以)權(權)力(力)運(運)命(命)部(部)海(海)島(島)臣(臣)民(民)ノ(ノ)他(他)ノ(ノ)強(強)

テ(テ)私(私)權(權)下(下)均(均)シ(シ)ム(ム)ホ(ホ)リ(リ)マ(マ)ス(ス)奉(奉)還(還)申(申)上(上)条(条)ニ(ニ)依(依)リ(リ)及(及)効(効)ハ(ハ)海(海)

ニ(ニ)シ(シ)ム(ム)コ(コ)ト(ト)ヲ(ヲ)以(以)テ(テ)我(我)國(國)政府(府)ニ(ニ)於(於)テ(テ)シ(シ)テ(テ)海(海)島(島)友(友)室(室)ト(ト)

ノ(ノ)契(契)約(約)ニ(ニ)對(對)シ(シ)テ(テ)海(海)島(島)友(友)室(室)一(一)部(部)還(還)無(無)事(事)ノ(ノ)効(効)力(力)ヲ(ヲ)失(失)

フ(フ)キ(キ)モ(モ)シ(シ)ア(ア)ラ(ラ)ン(ン)コ(コ)ト(ト)ヲ(ヲ)承(承)認(認)ス(ス)ル(ル)ニ(ニ)對(對)シ(シ)テ(テ)如(如)使(使)

信(信)ス(ス)ル(ル)コ(コ)ト(ト)ヲ(ヲ)以(以)テ(テ)海(海)島(島)友(友)室(室)一(一)部(部)還(還)無(無)事(事)ノ(ノ)効(効)力(力)ヲ(ヲ)失(失)

交(交)替(替)即(即)チ(チ)海(海)島(島)友(友)室(室)一(一)部(部)還(還)無(無)事(事)ノ(ノ)効(効)力(力)ヲ(ヲ)失(失)

MT 5,8,17,12

251

MT 5,8,17,12

250

5-0837

0185

9

ルニ道キサンセノニ存立ス

ヨリは回意ノ旨ノ

本件ニ実シテ一連カニ關テ確信ヲ持セラコトヲ存望セシキ

中色チ方ニ使ハレテ主ニテ閣下ニ向テ教言ヲ表シテ教員

一九〇六年 三月三十日 東京 松本

外務省

MT 5,8,17,18

252

5-0837

0186

Legation
Imperiale
de Russie

Tokio le 30 Mai
12 Juin 1906

#340.

Monsieur le Vicomte,

J'ai l'honneur d'accuser à votre
Excellence l'exacte réception de la
note datée du 31 Mai a. s., #54, dans
laquelle vous voulez bien me citer
l'article IV, § 3, du Règlement
concernant les pêcheries de Sakhaline
publié dans la Gazette Officielle du
7 Août 1905, en exprimant l'avis que
les concessionnaires russes ne s'étant
pas conformés aux formalités pres-
crites par ce Règlement, les autorités
de Sakhaline étaient dans leur droit
quand elles ont loué les pêcheries
russes à des sujets japonais.
Votre Excellence veut bien ajouter
qu'on n'a jamais refusé d'admettre
un représentant des sujets russes
à présenter sa demande, et que le
Règlement exigeant la vente des

東京
外務省
庶務課

あは
手取調課

son Excellence
Le Vicomte Hayashi
Ministre des Affaires Étrangères

MT 5,2,17,22 261

5-0837

0187

propriétés se trouvant dans différentes pêcheries se rapporte aux japonais, aussi bien qu'aux russes.

Je regrette de ne pas pouvoir partager l'avis ainsi exprimé par Votre Excellence. Le Règlement précité a été publié le 7 Août 1905, c'est à dire, à une époque antérieure d'un mois à la signature du traité de paix, par lequel le Gouvernement Impérial de Russie a cédé au Gouvernement Impérial du Japon la partie Sud de l'île de Sakhaline. Cette cession n'est devenue un fait accompli que le 14 Octobre, jour de la ratification du traité. Jusque là, l'état de guerre n'avait pas été considéré comme ayant définitivement pris fin, et les hostilités n'avaient été que suspendues en partie, en vertu du Protocole d'armistice signé à Portsmouth. Il me paraît donc qu'il était impossible d'exiger que les concessionnaires russes eussent connu le Règlement publié à Tokio et s'y fussent conformés à une époque où les russes ne venaient point encore au Japon.

MT 5,2,17,12 260

Et cependant, le Règlement, dans son Article XVIII, fixe comme terme pour la présentation des demandes par les sujets russes le 5 Septembre 1905, c'est à dire, le jour à partir duquel commençait l'armistice, et pas même l'état de paix complète.

Il est parfaitement exact qu'aucun représentant des sujets russes n'a été empêché de présenter sa demande aux autorités de Sakhaline. Mais l'incident auquel j'ai eu l'honneur de faire allusion dans ma note du 11/24 Avril, A202, et dont M. Denbigh m'affirme d'une façon catégorique l'exactitude, est que les employés japonais qu'il avait envoyés à Korsakovsk, munis de passeports délivrés par les autorités du Japon, s'étaient vu refuser l'accès de cette île; M. M. Seménoff et Denbigh ont été empêchés par là de prendre connaissance de l'état des choses à Sakhaline en général, et en particulier, sur leurs concessions.

Le Règlement ordonnant la vente aux nouveaux locataires des propriétés

MT 5,2,17,12 259

des anciens concessionnaires, quoiqu'il ne visât pas exclusivement les sujets russes, se rapportait néanmoins aussi à ces derniers. Comme il possédaient des baux à longue échéance, ce Règlement a porté une grave atteinte à leurs intérêts, car s'ils réussissaient à obtenir le droit d'exploiter leurs pêcheries l'année suivante, il leur fallait ou bien racheter leurs propriétés aux locataires de l'année précédente, ou bien se procurer une nouvelle installation. Combien ce Règlement était injuste envers eux, est prouvé par le fait que dernièrement les autorités de Sakhaline se sont vues obligées de révoquer la confiscation déjà ordonnée et notifiée aux propriétaires.

Je suis loin de vouloir présenter à Votre Excellence des récriminations quelconques contre les autorités japonaises de Sakhaline; aussi, si j'ai cru devoir faire l'analyse ci-dessus de leur façon d'agir, ce n'est que pour établir clairement le fait que les Règlements publiés par elles, et dont je me propose de traiter

MT 5,2,17,18 258

plus tard la question de légalité, mettaient les concessionnaires russes, sûrs de leurs droits basés sur l'Article X du Traité de Portsmouth, dans l'impossibilité matérielle d'en profiter, et que ces Règlements, promulgués à une époque où le sort définitif de la partie Sud de l'île de Sakhaline restait encore indécis, ne pouvaient en toute justice être considérés comme obligatoires pour les anciens concessionnaires.

Le Règlement du 7 août 1905 n'était que provisoire, comme l'indique son titre, et n'était fait que pour l'époque de l'occupation japonaise de l'île de Sakhaline, comme on le lit dans son Article I. Je ne conteste point le droit des autorités militaires japonaises de faire un pareil Règlement dans les conditions précitées: il est évident que pendant l'époque de l'occupation de ce territoire ennemi, les autorités japonaises n'avaient à observer que certaines dispositions de la Convention de La Haye. Mais du moment où le Traité de paix a été ratifié, l'occu-

MT 5,2,17,18 257

nation a été remplacée par une cession définitive, et le Gouvernement Impérial du Japon a à observer les conditions dans lesquelles cette cession a été faite, et notamment, celle de l'Article I du traité de Portsmouth qui contient l'engagement du Gouvernement Impérial de „maintenir et de protéger dans le plein exercice de leurs industries et droits de propriété les sujets russes habitant du territoire cédé au Japon.“ Or, les droits que possèdent dans ce territoire M. M. Séménoff et Denbigh, Kramarenko et Rizitch, sujets russes, sont des droits d'exploitation pendant un certain nombre d'années des pêcheries louées à eux par le Gouvernement de Russie; ces droits se trouvent violés par les enchères publiques du mois d'octobre 1905, quand ces pêcheries ont été louées à d'autres. Le Règlement du 7 août 1905, en vertu duquel ces enchères ont été faites, est donc en contradiction avec l'Article I du traité de paix, et par conséquent, il est devenu, à partir du jour de la cession de la partie

MT 5,2,17,18

256

Sud de Sakhaline, illégal et non-applicable au territoire cédé. — L'Article VI de ce Règlement stipule que les concessionnaires qui obtiendront l'autorisation d'exploiter les pêcheries qu'ils avaient louées antérieurement au Gouvernement de Russie, devront payer pour cette autorisation une certaine somme qui sera fixée par les autorités militaires japonaises; or, les droits qu'ils avaient acquis avant la cession et qui leur sont garantis par l'Article I du traité, consistent à payer un prix déterminé de location qui peut être différent de celui indiqué par l'autorité japonaise. Donc, sous ce rapport aussi, le Règlement du 7 août viole leurs droits.

J'estime, en conséquence, que les concessionnaires russes ne sont pas tenus à se conformer au Règlement du 7 août 1905, et si je les invite tout de même à présenter à l'Administration japonaise de Sakhaline les documents prouvant l'existence chez eux de contrats passés avec les autorités russes, ce n'est qu'à

MT 5,2,17,18

255

titre facultatif et nullement avec l'idée de reconnaître la légalité et la force obligatoire pour eux de ce Règlement.

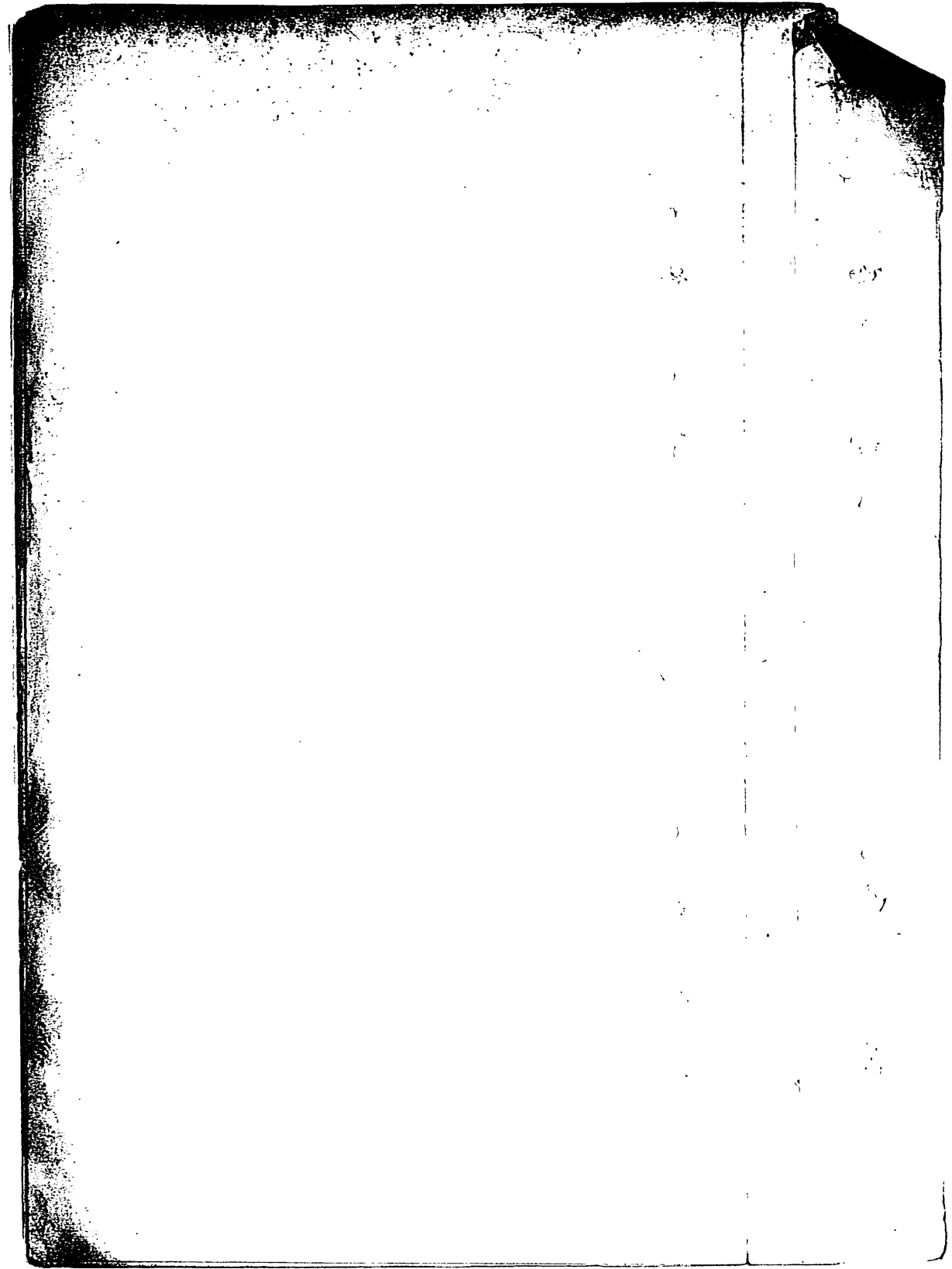
Il me semble, et je me plais à espérer que Votre Excellence partagera cet avis, que dans l'affaire des concessions russes à Sakhaline, il s'agit tout d'abord de décider en principe si l'Article I du traité de Portsmouth garantit aux concessionnaires le droit d'exploiter leurs pêcheries dans les mêmes conditions auxquelles ils se sont engagés à se conformer par les contrats passés avec les autorités russes avant la cession de la partie sud de cette île au Gouvernement impérial du Japon. Cette question de principe une fois résolue, les détails en déculeront d'une façon absolument logique et ne présenteront plus de difficultés.

J'aime à croire qu'en vue des considérations ci-dessus énoncées, le Gouvernement impérial n'hésitera pas à reconnaître que les droits acquis avant la cession en vertu des contrats entre les autorités russes et M. M. Seménoff et Denbigh,

Kramarenko et Biritch, comme tous les autres droits privés des sujets russes dans la partie sud de Sakhaline, doivent être considérés comme effectivement garantis par l'Article I du traité de Portsmouth, et que par conséquent, ces contrats n'ont pas perdu leur valeur par suite de la cession d'une partie de cette île par la Russie au Japon, ce fait n'ayant pour résultat que le remplacement d'une des parties contractantes - le Gouvernement de Russie par celui du Japon.

Sans l'espoir de recevoir bientôt de Votre Excellence une réponse affirmative à cette question, je saisis l'occasion de vous renouveler, Monsieur le Vicomte, l'assurance de ma très haute considération.

G. Bakmeteff



5-0837

0192

秘文

林外務大臣閣下

シエー、バクノテフ

Handwritten signature

以書翰致啓上候陳者本年五月二十一日第五四号貴翰確カ、受領致矣該書翰、於閣下二九〇五年八月七日、官報に於て公布セラレタル陸哈連漢場、関スル規則第四條第三号ヲ御奉示、上露國免許人該規則ニ定メラレタル形式ニ遵據セカリシカ爲、在陸哈連、官憲カ日本臣民、露國人ノ漢場ヲ貸下ケルモ之レ該官憲ノ當然ノ權限ニ屬スルモノナリトノ御意見ヲ閣下ニ成、且露國臣民ノ代理人、其請求ヲ提出スルカ爲、曾テ拒絶セラレタルコト等之、又各漢場ニ存スル財産売却ヲ命スル規則ハ露國人ニ對スルト均シク日本入ニモ関スルモノナルコトヲ御附言相成矣

MT 5.2.17.18 262

憾トスル所ニ有之矣前記規則一九〇五年八月七日傳言スレハ平和條約ノ調印ニ先ツコト一箇月ノ時期、於て公布セラレタルモノニシテ右各約ノ據リ露西亞帝國政府ハ陸哈連島ノ南部ヲ日本帝國政府ニ讓與致矣此ノ讓與ハ十月十四日即該各約批准ノ日、於テ始メテ既成事實ト成矣モノニシテ此時、到ル迄ニ交戦状態ニ確實ニ終ラシタルモノト思量スルコトヲ得カリシモノ有之且抗敵行為ニホトマシニ於テ調印セラレタル休戰議定書ニ據リ軍ニ一部中止セラレタルニ過キカリシモノニ有之矣故、露國免許人東京、於テ公布セラレタル右規則ヲ知了スルコトヲ要求シ且露國人猶ホ未タ日本ニ渡來セザリシ時、於テ之ニ遵據スヘキコトヲ命スルハ不能ク責ムルモノノ様相見ヘ矣加之右規則第十八條ニ據リ、露國臣民ノ請求ヲ提出スヘキ期間トシテ一九〇五年九月五日即テ休戰ノ開始シタリシ日ニシテ且平和ノ状態未タ完カラザリシ日ヲ指定致居矣

MT 5.2.17.18 263

ヲ受ケタルコトナカリシハ全然正確ナル儀ニ有之矣得共本使カ四月廿四日付第二
二号機翰中、論及致置且「デニビ」氏カ本使ニ確言シタル事實ニ據レハ日
本官憲ノ交付シタル旅券ヲ携帶シ「コルサヨウ」ニ向ケ渡航シタル同氏使用人
(日本人)カ該島ニ上陸スルコトヲ拒絶セシメ之カ爲メ「セモノ」氏「デニビ」氏「西氏」薩哈
哇一般ノ情况殊ニ自己ノ免許場ノ有様ヲ知ルコト能ハサルニ至リタルニ事實
ニ有之矣

旧免許人ノ財産ヲ新接受人ニ賣却スルコトヲ命ズル規則ニ設令ヒ全然露國臣
民ニミ著眼シタルモノニ非ストスルモ矢張り該臣民ニミ關係シタルモノニ相違ナレ
即ケ彼等ノ長期借区權者ナルカ故ニ右規則ニ彼等ノ利益ニ害大ナル障害ヲ
與ヘ可申矣何トナレハ假令ニ彼等ノ翌年其澳場ヲ經營スルノ權利ヲ取得スル
コトトスモ右規則ノ結果トシテ彼等ノ前年ノ借受人ノ彼等ノ財産ヲ買戻
スルカ又新規ノ設備ヲ設フルカ必要トスルニ至ルカ故ニテ更ニ之該規則カ如何
計リ彼等ノ對シ不正ナルカ、過般薩哈哇ノ官憲カ一旦所有者ニ命令シ且通

知シス没収ヲ取消スノ餘儀ナキニ至リテ事實ニ據リテ証明致カレ矣
本使ニ薩哈哇日本官憲ニ對シ何等非難ヲ閣下ニ提出セシムル欲スル次第ニ
免頭應之又該官憲ノ取振ニ對シ上記解説スルヲ要スルモノト信シ候ハ是レ
單ニ該官憲ノ公布ル規則(本使ニ後段其合法ナリヤ否ヤヲ論セント欲スル
規則)ニ「ホーツマス」条約第10条ノ規定ニ基キ自己ノ權利トシテ安固ナルモノト
信スル露國免許人ヲシテ事實上該規定ヲ利用スルノ不能ナルニ至ラシモノ
ナルコト並、右規則ニ薩哈哇島南部ノ運命猶ホ未決ナリシ時期ニ公布セラレ
タルヲ以テ前記免許人ニ對シ正當ニ羈束カアルモノト認ムルヲ得ナルコトヲ明
瞭ニ立論セムカ爲メニ外ナラス候
一九〇五年八月七日規則ニ其表題ニ示スル如ク單ニ假リノモノニシテ其第一条
ニ明規スルカ如ク日本カ薩哈哇島ヲ占領セル間ニ限ララルモノナリ本使ハ右ノ
條件ニ於テ斯ル規則ヲ制定シ得ル日本軍事官憲ノ權利ニ之ヲ爭フモ
、無之矣即チ敵國ノ此領土占領期間内ニ日本官憲ニ海牙条約ノ或



條項ノ外遵守スルヲ要セ^ル併^ニ平和條約批准ト共、占領ノ確定的讓
與ト變^シタルカ爲メ日本帝國政府ハ此讓與カ爲ケタル條件殊^ニホ^トツマ^シ各約
第十條ノ條件ヲ遵守セサルハカラコトト相成申案而シテ右第十條ニ日本國
議院セシタル地域ノ住民タル露西亞國臣民ニ付テ完全ニ其ノ職業ニ從
事シ且財産權ヲ行使スルニ於テ支障、保護セラルヘキコトノ帝國政府ノ約束ヲ
俾有^ル致居安抑モ此ノ地域ニ於テ露國臣民タルモノ^ノ及ヒ^テコ^トン^ビ、^ノカラマ^レシコ
及ヒ^テリ^ツチ^ノ諸氏、有^ルん權利^ニ露國政府ヨリ彼等ニ貸下^ラレタル澳場^ヲ或年
限間經營シ得^ルノ權利^ニ此等、權利^ニ一九〇五年十月ノ競争^ノ札^ヲ依^リ該
澳場カ他人^ノ貸下^ラレタル時^ニ於テ侵害セ^ラレタルモノ^ニシテ右競争^ノ札^ヲ定^ムタ
ル一九〇五年八月七日ノ規則^ニ平和條約第十條ト相容^シタルモノ^ノ改^メ該規
則^ニ薩哈哇南部讓與^ノ日以來不正^ニシテ且讓與^ノ地域^ニ不適用^ノモノ^トナリ
タルモノ^ニ有^ル之矣又該規則第十條^ニ露國政府ヨリ從來貸下^ラレタル澳場
ヲ經營スル許可^ヲ受^ケタル免許人^ハ此ノ許可^ニ對シ日本軍官憲^ノ定^ムル所

一定ノ額ヲ納付スヘキコトヲ規定セリ然ルニ彼等^ノ讓與^ノ前^ニ取得^シタル權利^ニ
テ且條約第十條^ニ於テ保証セ^ラレタル權利^ハ日本官憲^ノ定^ムル額^ト異^{ナル}コ
トアルヘキ確定^ノ貸下^料ヲ納付スヘキモノ^{ナリ}未^キ由^リ八月七日ノ規則^ニ此点^ニ於
テモ亦^タ彼等^ノ權利^ヲ侵害スルモノ^ニ有^ル之矣
右ノ次第アルニ日露國免許人^ハ一九〇五年八月七日ノ規則^ヲ遵守スルノ義務
ナキモノト思考^セ被^シ致^ス矣而シテ該免許人等^ハ露國官憲^ノ間、締結^シタ
ル契約^ノ存在^ヲ立証スヘキ書類^ヲ薩哈哇日本行政廳^ニ提出スル様本使
ヲ^シ彼等^ノ懲^テ憑^スルコトアルモ右^ハ全^ク任意^ノコト^ト屬^シ決^シテ該規則^ノ合法
ナルコトヲ認^ム且ツ該規則^カ彼等^ノ對^シ竊^ニ束^ル力^ヲ有^スルコトヲ認^ムル^ノ意^ニ出
ツルモノ^ニ無^ク之矣
本使^ハ薩哈哇^ニ於^ケル露人免許事件^ニ関^シテ先^ニ以^テホ^トツマ^シ條約第
十條^ハ同島南部カ日本帝國政府^ニ讓與^シタル前露國免許人等^ハ露國
官憲^ト締結^シタル契約^ニヨリ遵守スヘキコトヲ約束^シタル條件^ト同様^ノ條件

於彼等ノ澳場ヲ經營スルノ權利ヲ露國免許人等ニ保証スルモノナルヲ否ヤ
点ヲ主義トシテ決定セトスル本使ノ意見ニ閣下ノ御同意アラハコトヲ致希
望矣主義上ノ此問題ニシテ一度解決スルルニ於テ細目ノ点ニ全ク論理上
ノ論断ニヨリテ決スルコトヲ得ヘク何等困難ヲ見ナルヘクト被存候
以上ノ理由ニ依リ日本帝國政府ニ於テ露國官憲トセシメノフ及ヒデニ
マレンコト及ヒコトヲ諸氏ノ間ノ契約ニ基キ豫前ノ既得權カ薩哈啞南
部ニ於ケル露國臣民ノ他ノ權利ト均シクホリツマシ條約第十條ニ依リ
有効ニ保証セシムルモノト認メタルヲ得ナルコト并ニ其結果トシテ此等ノ契約
ニ露國ヨリ日本ニ該島ノ一部ヲ讓與セシムルカ爲ニ其効力ヲ失フヘキモノニアラ
ナルコトヲ承認スルニ躊躇セラルヘキコトハ本使ノ信スルヲ悦フ所ニ有之矣蓋
シ右讓與ナル事實ニ早ニ契約當事者ノ交替即チ露國政府ノ代リニ日
本政府ヲ以テスルノ結果ヲ生スルニ過キサルモノニ有之矣
本件ニ関シテ速ニ閣下ヨリ御同意ノ旨ノ御確答ヲ接セムコトヲ希望致矣

右申進旁々本使ニ茲ニ宣テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候致具
一九〇六年 五月三十日 東京ニ於テ



... dans la partie Sud de Sachaline, doivent être considérés
comme effectivement garantis par l'Article X du Traité de Ports-
mouth, et que par conséquent, ces contrats n'ont pas perdu leur
valeur par suite de la cession d'une partie de cette île par
la Russie au Japon, ce fait n'ayant pour résultat que le rem-
placement d'une des parties contractantes - le Gouvernement de
Russie par celui du Japon.

Dans l'espoir de recevoir bientôt de Votre Excellence une
réponse affirmative à cette question, je saisis l'occasion de
vous renouveler, Monsieur le Vicomte, l'assurance de ma très
haute considération.

(L. S.) G. Babstéeff.

A Votre Excellence
le Vicomte Hayashi,
Ministre des Affaires Étrangères

MT 5,2,17,12 271

... dans la partie Sud de Sachaline, doivent être considérés
comme effectivement garantis par l'Article X du Traité de Ports-
mouth, et que par conséquent, ces contrats n'ont pas perdu leur
valeur par suite de la cession d'une partie de cette île par
la Russie au Japon, ce fait n'ayant pour résultat que le rem-
placement d'une des parties contractantes - le Gouvernement de
Russie par celui du Japon.

Dans l'espoir de recevoir bientôt de Votre Excellence une
réponse affirmative à cette question, je saisis l'occasion de
vous renouveler, Monsieur le Vicomte, l'assurance de ma très
haute considération.

(L. S.) G. Babstéeff.

A Votre Excellence
le Vicomte Hayashi,
Ministre des Affaires Étrangères

MT 5,2,17,12 270

leurs pêcheries l'année suivante. Il n'y a rien de bien nouveau
dans leur proposition sur l'occupation de la partie cédée, en lieu
de proposer une nouvelle localisation. L'occupation de l'Article
du Traité de Portsmouth, et c'est à ce titre que le Gouvernement
des autorités de Sakhaline a pu proposer l'occupation de la
partie cédée.

Je suis loin de vouloir méconnaître les préoccupations des
autorités japonaises sur les pêcheries japonaises de
Sakhaline; aussi, si j'ai cru devoir faire l'analyse ci-dessus
de la façon d'agir, ce n'est que pour établir clairement le
fait que les règlements publiés par elles, et dont je ne propose
de modifier plus tard la position de légalité, mettaient les con-
cessionnaires japonais, et non les droits basés sur l'Article X
du Traité de Portsmouth, dans la responsabilité matérielle d'un
fait qui, par ses conséquences, a entraîné une époque où le
Gouvernement japonais a pu percevoir sur la partie de Sakhaline cédée
un certain nombre de droits, et par conséquent, il est devenu
illégal et non applicable au territoire cédé.

Le Règlement du 7 Août 1905, qui prévoit, comme
l'Article X du Traité de Portsmouth, que pour l'époque de l'occu-
pation de la partie cédée, les pêcheries japonaises de Sakhaline
seront exploitées par les autorités militaires japonaises, et que
les concessionnaires japonais, pendant l'époque de l'occupation de
ce territoire, en vertu des articles japonais n'avaient à

observer que certaines dispositions de la convention de la partie
Mais du moment où le Traité de paix a été ratifié, l'occupation
a été remplacée par une cession définitive, et le Gouvernement
Impérial du Japon a à observer les conditions dans lesquelles
cette cession a été faite, et notamment, cette de l'Article X
du Traité de Portsmouth qui contient l'engagement du Gouvernement
Impérial de "maintenir et de protéger dans le plein exercice de
leurs industries et droits de propriété les sujets russes habi-
tants du territoire cédé au Japon." Or, les droits que possèdent
dans ce territoire M. M. Sémenoff et Danbigh, Kramarenko et
Biritch, sujets russes, sont des droits d'exploitation pendant
un certain nombre d'années des pêcheries louées à eux par le
Gouvernement de Russie, ces droits se trouvent violés par les
enchères publiques du mois d'Octobre 1905, quand ces pêcheries
ont été louées à d'autres. Le Règlement du 7 Août 1905, en vertu
duquel ces enchères ont été faites, est donc en contradiction
avec l'Article X du Traité de paix, et par conséquent, il est
devenu, à partir du jour de la cession de la partie Sud de Sakha-
line, illégal et non applicable au territoire cédé. - L'Article
VI de ce Règlement stipule que les concessionnaires qui obtien-
dront l'autorisation d'exploiter les pêcheries qu'ils avaient
louées antérieurement au Gouvernement de Russie, devront payer
pour cette autorisation une certaine somme qui sera fixée par
les autorités militaires Japonaises; or, les droits qu'ils avaient
acquis avant la cession et qui leur sont garantis par l'Ar-
ticle X du Traité, consistent à payer un prix déterminé de location

秘

有吉村公使筆書

Monsieur le Vicomte,

J'ai l'honneur d'accuser à Votre Excellence l'exacte réception de Sa note datée du 31 Mai a. c., 54, dans laquelle Vous voulez bien reciter l'article IV, paragraphe 3, du Règlement concernant les pêcheries de Sakhaline publié dans la Gazette officielle du 7 août 1905, en exprimant l'avis que les concessionnaires russes ne s'étant pas conformés aux formalités prescrites par ce Règlement, les autorités de Sakhaline étaient dans leur droit quand elles ont loué les pêcheries russes à des sujets japonais. Votre Excellence veut bien ajouter qu'on n'a jamais refusé d'admettre un représentant des sujets russes à présenter sa demande, et que le Règlement exigeant la vente des propriétés se trouvant dans différentes pêcheries se rapporte aux japonais, aussi bien qu'aux russes.

Je regrette de ne pas pouvoir partager l'avis ainsi exprimé par Votre Excellence. Le Règlement précité a été publié le 7 août 1905, c'est-à-dire, à une époque antérieure d'un mois à la signature du Traité de paix, par lequel le Gouvernement Impérial de Russie a cédé au Gouvernement Impérial du Japon la partie sud de l'île de Sakhaline. Cette cession n'est devenue un fait accompli que le 14 Octobre, jour de la ratification du Traité. Jusque là, l'état de guerre n'avait pas été considéré comme

MT 5,2,17,12

275

avant définitivement pris fin, et les hostilités n'avaient été que suspendues en partie, en vertu du Protocole d'armistice signé à Portsmouth. Il me paraît donc qu'il était impossible d'exiger que les concessionnaires russes eussent connu le Règlement publié à Tokio et s'y fussent conformés à une époque où les russes ne venaient point encore au Japon. Et cependant, le Règlement, dans son Article XVIII, fixe comme terme pour la présentation des demandes par les sujets russes le 5 Septembre 1905, c'est-à-dire, le jour à partir duquel commençait l'armistice, et pas même l'état de paix complété.

Il est parfaitement exact qu'aucun représentant des sujets russes n'a été empêché de présenter sa demande aux autorités de Sakhaline. Mais l'incident auquel j'ai eu l'honneur de faire allusion dans ma note du 11/24 Avril, n° 202, et dont M. Denbigh m'affirme d'une façon catégorique l'exactitude, est que les employés japonais qu'il avait envoyés à Korsakovsk, munis de passeports délivrés par les autorités du Japon, s'étaient refusés l'accès de cette île; M. M. Sémenoff et Denbigh ont été empêchés par là de prendre connaissance de l'état des choses à Sakhaline en général, et en particulier, sur leurs concessions.

Le Règlement ordonnant la vente aux nouveaux locataires des propriétés des anciens concessionnaires, quoiqu'il ne visât pas exclusivement les sujets russes, se rapportait néanmoins aussi à ces derniers. Comme ils possédaient des baux à longue échéance, ce Règlement a porté une grave atteinte à leurs intérêts, car s'ils réussissaient à obtenir le droit d'exploiter

MT 5,2,17,12

274

明治三十九年六月十八日

日

御覽

裕田

明治三十九年六月十八日

御覽

大臣

主任

樺太島

寺内陸軍大臣宛

撥送第九九號

其外務大臣

樺太島漁業章程ニ関スル事案ハ皇親ノ御下知ニ及テ

樺太島漁業章程ニ関スル事案ハ皇親ノ御下知ニ及テ

日國公使宛回答文送付事案ハ皇親ノ御下知ニ及テ

外務省

今般更ニ御下知ノ通日公使ノ御下知ニ及テ

別張ハ公使ノ御下知ニ及テ

御下知

MT 5,2,17,12 277

MT 5,2,17,12 276

5-0837

0200

秘
録
文

林外務大臣閣下

シエー、バクノテフ

以書翰致啓上候陳者本年五月二十一日第百四号貴翰確カニ受領
致矣談書翰ニ於テ閣下一九〇五年八月七日官報ニ於テ公布セラレタル陸
哈哩漢場ニ関スル規則第四條第三号ヲ御啓示ノ上露國免許人ノ規則
別ニ定メラレタル形式ニ遵據セカリシカ者、在陸哈哩、官憲カ日本臣民
露國人ノ漢場ヲ貸下ケタルモ之レ該官憲ノ當然ノ權限ニ屬スルモノナリト
御意見ヲ閣下ニ成且露國臣民ノ代理人ニ其請求ヲ提出スルカ為メ曾テ
拒絶セラレタルコト等之又各漢場ニ存スル財產売却ヲ命スル規則ハ露國人
ニ對スルト均シク日本人民ニモ關スルモノナルコトヲ御附言相成矣
右御開示ニ成矣閣下、御意見ニ對シ同意スルコトヲ得カハ本使ノ遺

MT 5,2,17,18 278

憾トスル所ニ有之矣前記規則一九〇五年八月七日據言スルハ平和條約
ハ調印ニ先ツト一箇月ノ時期ニ於テ公布セラレタルモノニシテ右各約ニ據リ露
西亞帝國政府ハ陸哈哩島ノ南部ヲ日本帝國政府ニ讓與致矣此ノ讓與
ハ十月十四日即該各約批准ノ日ニ於テ始メテ既成事實ト成矣モノニシテ
此時、到ル迄ニ交戦状態ニ確實ニ終了セタルモノト思量スルコトヲ得カリシモ
、有之且抗敵行為ニ「ボーツ」ニ於テ調印セラレタル休戰議定書ニ據リ單
ニ一部中止セラレタルニ過キカリシモノニ有之矣故、露國免許人東京ニ於テ
公布セラレタル右規則ヲ知了スルコトヲ要求シ且露國人猶ホ未ダ日本ニ渡
來セザリシ時ニ於テ之ニ遵據スヘキコトヲ命スルハ不能ヲ責ムルモノノ様相見
ハ莫加之右規則第六條ニ據リハ露國臣民ノ請求ヲ提出スヘキ期間トシ
テ一九〇五年九月五日即テ休戰ノ開始シタリシ日ニシテ且平和ノ状態未ダ完
カズカリシ日ヲ指定致居矣
露國臣民ノ如何ニ代理人ハ陸哈哩ノ官憲ニ其請求ヲ提出スルハ之ヲ妨害

MT 5,2,17,18 279

ヲ受ケタルコトナリシハ全然正確ナル儀ニ有之矣得共本使カ四月廿四日付第二
ニ号於輪中、論及致置且「デニビ」氏カ本使ニ確言シタル事實ニ據レハ日
本官憲ノ交付シタル旅客ヲ携帶シ「コルサコウス」ニ向ケ渡航シタル同氏使用人
（日本人）カ該島ニ上陸スルコトヲ拒絶セシメ之カ爲メ「デニビ」兩氏ニ薩哈
哇一版ノ情况殊ニ自己ノ免許場ノ有様ヲ知ルコト能ハサルニ至リタル事實
ニ有之矣

同免許人ノ財産ヲ移荷受人ニ賣却スルコトヲ命ズル規則ハ設令ハ全然露國臣
民ニ著眼シタルモノニ非ストスルニ失張リ該臣民ニモ關係シタルモノニ相違ナレ
即チ彼等ニ長期借込權者ナルカ故ニ右規則ハ彼等ノ利益ニ重大ナル障害ヲ
與ヘ可申矣何トシハ彼等カ翌年其漁場ヲ經營スルノ權利ヲ取得スル
コトナレモ右規則ノ結果トシテ彼等ノ前年ノ借受人ヨリ彼等ノ財産ヲ買戻
スルカ又新規ノ設備ヲ造ルルカ必要トスルニ至ルカ故ニ之ヲ加シ該規則カ如何
計リ彼等ノ對シ不正ナルカハ過般薩哈哇ノ官憲カ一旦所有者ニ命令シ且通

知シタル沒收ヲ取消スル餘儀ナキニ至リシ事實ニ據リテ証明致カレ矣
本使ハ薩哈哇日本官憲ノ對シ何等非難ヲ閣下ニ提出セシト欲スル次第ニ
免頭應之又該官憲ノ取振ニ對シ上記解説スルヲ要スルモノト信シ候ニ是レ
單ニ該官憲ノ公布シタル規則（本使ハ後段其合法ナリヤ否ヤヲ論セント欲スル
規則）ハ「ホー」ツマニ各約第廿条ノ規定ニ基キ自己ノ權利トシテ安固ナルモノト
信スル露國免許人ヲシテ事實上該規定ヲ利用スルノ不能ナルニ至ラシモノ
ナルト並ニ右規則ハ薩哈哇島南部ノ運命猶ホ未決ナリシ時期ニ公布セラレ
タルヲ以テ前記免許人ニ對シ正當ニ羈束カアルモノト認ムルヲ得ナルコトヲ明
瞭ニ立論セカカ爲メニ外ナラス候

一九〇五年八月七日ノ規則ニ其表題ニ示スル如ク單ニ假リモノニシテ其第一条
ニ明規スルカ如ク日本カ薩哈哇島ヲ占領セル間ニ限ラレルモノナリ本使ハ右ノ
條件ニ於テ斯ル規則ヲ制定シ得ル日本軍事官憲ノ權利ニ之ヲ爭フニ
無之矣即チ敵國ノ此領土占領期間内ニ日本官憲ニ海牙各約ノ或

條項ノ外遵守スルヲ要スル條項有之
併ト變シカカ爲メ日本帝國政府此議定カ爲ケルニ條件殊ニホトツマニ各約
第十條ノ條件ヲ遵守セサルハカラコト相成申案而シテ右第十條ニ日本國
議定セタル地域ノ住民タル露西國臣民ニ付テ完全ニ其ノ職業ニ從
事シ且財產權ヲ行使スルニ於テ支障保護セラルヘキコトノ帝國政府ノ約束ヲ
作有致居矣抑モ此ノ地域ニ於テ露國臣民タルモノフ及ヒテデンビー、ウラマレ、
及ヒリツチ諸氏ノ有ル權利ニ露國政府有テ彼等ニ賦下ケラレタル澳場ヲ或年
限間經營シ得ル權利ニテ此等ノ權利一九〇五年十月ノ競争入札ニ依リ該
澳場カ他人ニ賦下セラレタル時ニ於テ侵害セラルモノニテ右競争入札ヲ定メタ
ル一九〇五年八月七日ノ規則ニ平和條約第十條ト相容シタルモノナルカ故テ該現
則ニ薩哈啞南部讓與ノ日以來不正ニテ且讓與地域ニ適用ノモノトナリ
タルモノ有之矣又該規則第十條ニ露國政府有テ從來賦下ケラレタル澳場
ヲ經營スル許可ヲ受ケタル免許人此ノ許可ニ對シ日本軍軍官憲ノ定ル所

一定ノ額ヲ納付スヘキコトヲ規定セリ然ルニ彼等ヲ讓與前ニ取得シタル權利ニ
テ且條約第十條ニ於テ保證セラル該權利ニ日本官憲ノ定ル額ト異ナルコ
トアルニ確定ノ貸下料ヲ納付スヘキモノナリ於テ八月七日ノ規則ニ此點ニ於
テ亦テ彼等ノ權利ノ侵害スルモノ有之矣
右ノ以テ露國免許人一九〇五年八月七日ノ規則ヲ遵守スルノ義務
ナキモノト思考被致矣而シテ該免許人等ト露國官憲トノ間ニ締結シタ
ル契約ノ存在ヲ立証スヘキ書類ヲ薩哈啞日本行政廳ニ提出スル様本使
ヲ彼等ヲ慈惠スルコトアルモ右ノ全ク任意ノコトニ屬シテ該規則ノ合法
ナルコトヲ認メ且ツ該規則カ彼等ニ對シ竊束力ヲ有スルコトヲ認ムルノ意ニ出
ツルモノニ無之矣
本使薩哈啞ニ於ケル露人免許事件ニ関シテ先以テホトツマニ條約第
十條ニ同島南部カ日本帝國政府ニ讓與セラル前露國免許人等カ露國
官憲ト締結シタル契約ニヨリ遵守スヘキコトヲ約束スル條件ト同様ノ條件

於彼等ノ漢場ヲ經營スルノ權利ヲ露國免許人等ト保証スルモノナル否ヲ
点ヲ主義トシテ決定セトスル本使ノ意見ニ閣下、御同意アリシコトヲ致希
望矣主義上ノ此問題ニシテ一度解決スルニ於テ細目ノ点ニ全ク論理上
ノ論断ニヨリテ決スルコトヲ得ヘク何等困難ヲ見サルヘクト被存候
以上ノ理由ニ依リ日本帝國政府、於テ露國官憲トシモノフ及ヒテヒール
マレンコ及ヒヒリウチ諸氏ノ間、契約ニ基ク漢界前、既得權カ薩哈連南部
ニ於ケル露國臣民ノ他ノ權利ノ私權ト均シクホリツマス條約第十條ニ依リ
有効ノ保証トシタスモノト認メタルヲ得ナルト并ニ其ノ結果トシテ此等ノ契約
ニ露國ヨリ日本ニ該島ノ一部ヲ讓與シタカ爲ニ其ノ効力ヲ失フヘキモノニアラ
ナルコトヲ承認スルニ躊躇セシカルヘキコトハ本使ノ信スル所ニ有之矣蓋
ニ右讓與ナル事實ニ早ニ契約當事者ノ交替即チ露國政府ノ代リニ日
本政府ヲ以テスルノ結果ヲ生スルニ過キカルモノニ有之矣
本件ニ関シテ速ニ閣下ヨリ御同意ノ旨ノ御確答ヲ得ルコトヲ希望致矣

右申進旁、本使、茲、重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候致具
一九〇六年五月三十日東京、於テ

dans les mêmes conditions que celles de
leurs contrats antérieurs avec les auto-
rités russes, et que, par conséquent,
le Règlement du 7 Août 1905 est en
contradiction avec l'Article X du traité.

MT 6,8,17,18

286

5-0837

0205

Le Règlement du 7 août 1905 concernant les pêcheries de Sakhaline suppose que les concessionnaires russes devront renouveler tous les ans leur demande d'autorisation d'exploiter les pêcheries, pour lesquelles ils possèdent des baux à longue échéance du Gouvernement Russe, et que le prix de location pour ces pêcheries sera établi par les autorités japonaises, sans prendre en considération les termes des contrats passés entre ces concessionnaires et les autorités russes.

Le Gouvernement de Russie estime que l'Article 8 du traité de Portsmouth garantit aux sujets russes le droit d'exploiter ces pêcheries, pendant le terme de leurs baux,

MT 5,2,17,18

287

28/6/06

あま
公使
有
大臣
文

明治三十九年六月廿五日接受

主官 政務局

公才ハ一冊 送付、件

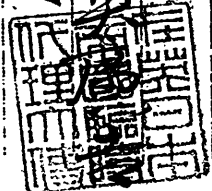
第一三三三三三三三

公冊書書記
録理ニ於テ接受
セズ
三十九年七月五日

昨日電信ガ六六號ヲ以テ送付方
而下係相成夫 "Report of the Transvaal
Commissioners Commission." June 1901 一冊
以別封及御送付小官即後年相
成及小教自矣
明治三十九年五月十日

在英

臨時代理大使伯青陸奥



外務大臣侯爵西園寺公望殿

在英國日本公使館

MT 5,2,17,12 288

要再田 急

大臣以重

明治廿九年七月五日 日 起 草
同廿九年七月五日 日 發 傳

取調課

おき

デニニ調扱

主任

第廿九年七月五日 連 濟

本日申渡天云し

明治廿九年七月五日 接 受

次官

秘

政務局

機密

通商局

在本邦露國公使宛

林外務大臣

以書翰致啓上矣陳者本月十二日付第三回。露國公使宛に接到

同書翰に於て閣下ニ様太島漁業假規則ニ支致状態ノ継続中

發布セラレタルモノニシテ同島に於て露國免許人等ノ權利ハホトマ

外務省

以條約第十條ノ規定ニ依リ保障セラレタルモノトシテ同規則ハ彼等

ノ權利ニ何等影響ヲ及ボスヘキモノニ非カニ趣御説述ホキ而閣

下ニ於テ彼等漁業免許人等ヲシテ其權利ノ証憑タル書類ヲ

同島官憲ニ提出スル様懇願スルコトアルモ是決シテ漁業假規則

ノ竊策カヲ認ムルノ意ニ出ワルモノニ無之旨御附言相成致取承

矣御申越ノ如ク漁業假規則ハ平和克復前ニ發布セラレタルモノ

ニシテ其第四條第六條等ノ規定ハ同規則第十條ノ規

定ニ背馳スルコトヲキヤ否ヤノ點ニ同規則發布ノ當時ニ於テ問題

MT 5.2.17.12 290

MT 5.2.17.12 289

5-0837

0208

ト為ラリレ次第ニ有之矣得共我商談官憲ニ於テ露國免許
 人等ノ提出書類ニ依リ權利ノ實質ヲ研究スル後、非カレハ其
 ノ果シテホトワマス條約ニ於テ尊重スヘキ旨ヲ約シテ權利ノ範圍ニ
 屬スルモノアリヤ否ヤヲ決定スル能ハルコト當然ノ事理ナルニ因リ先以
 テ彼等免許人等ヨリ其ノ所謂權利ノ根據タル契約書類ヲ我
 商談官憲ニ提出シタル後ニ非カレハ該官憲ニ於テ何等ノ處置ヲ
 取ル能ハルハ閣下ニ於テモ御同意可有之事ト存矣而シテ右
 商談官憲ノ決定ニ對シ常事者間ニ異議ヲ拂ハシムルコトモ
 當ノ手續ヲ經テ中央政府ニ救済ヲ求ムルノ規程ニ有之此ノ如ク
 帝國法制上ノ救済手續ヲ盡スモ猶本件ヲ解決スルニ至ラザ
 ル場合ニ於テ始メテ貴我兩國間ノ外交問題トシテ之ヲ處理ス
 ルノ便宜有年素右御四答旁々本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ對
 日敬意ヲ表シ矣敬具

外 務 省

MT 5,2,17,12

292

MT 5,2,17,12 291

les stipulations des Article IV, VI et autres en sont incompatibles avec celles de l'Article X du Traité de Portsmouth. Toutefois, comme il est évident par soi-même que les Autorités japonaises de Sakhaline ne peuvent décider si, oui ou non, les droits des concessionnaires russes appartiennent à la catégorie des droits garantis par l'Article X du Traité de Portsmouth, qu'après avoir examiné la substance de leurs droits selon les documents qui seront présentés par eux devant elles, vous partagerez pleinement mon opinion, d'après laquelle les autorités japonaises ne peuvent prendre aucune décision, avant que les dits concessionnaires produisent devant elles les documents relatifs aux contracts qui constituent les sources de leurs droits.

山
下
有

Dans les cas où, parmi les concessionnaires, il y aura ceux qui protesteront contre les décisions éventuelles des autorités de Sakhaline, ils pourront, passant par la filière réglementaire, en appeler au Gouvernement central; et c'est seulement lorsque, tous ces moyens légaux épuisés, la question n'est pas encore résolue, qu'elle sera

traitée par la voie diplomatique entre nos deux Gouvernements.

Je saisis etc. etc.



あ
ら
ま

Traduction.

機
密
印
シ
跡

林
外
務
省
に
送
付
す
る
に
関
し
て
の
事
を
記
す

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'accuser à Votre Excellence réception de la note du 12 du mois ~~current~~ ^{dernier}, No 340, dans laquelle vous voulez bien me dire que le Règlement provisoire relatif à la pêche de Sakhaline ayant été promulgué à une époque où l'état de guerre existait encore, n'est pas de nature à exercer de l'influence sur les droits des concessionnaires russes, garantis par l'Article X du Traité de Portsmouth, et que, par conséquent, si vous invitez les dits concessionnaires à présenter à l'autorité japonaise de Sakhaline les documents prouvant l'existence de contrats passés avec les autorités russes, ce n'est point avec l'idée de reconnaître la force obligatoire pour eux de ce Règlement.

Il est vrai, comme Votre Excellence vient de m'écrire, que le Règlement en question a été promulgué avant le rétablissement de la paix et qu'il n'était pas question, au moment de sa publication, de savoir si

MT 5.2.17.12 295

5-0837

0211

文書

明治三十九年七月六日 起草
同 七月六日 發遣ノ下

明治卅九年七月六日 發遣

別紙

大臣

取調課

主任

あぢ

杉田

機密 次官

機密第一〇號

寺内陸軍大臣宛

林外務大臣

様大旨に於ては、先づ人道事業に着手せしむべきに依りて、

致し先づ海軍に於ては、日清戦役後、日清戦役後、日清戦役後、

右等諸事、先づ海軍に於ては、日清戦役後、日清戦役後、

外務省

於ては、先づ海軍に於ては、日清戦役後、日清戦役後、

云々也

別紙送付公使宛、七月五日附公文官送附、

MT 5,2,17,12 297

MT 5,2,17,12 296

明治三十九年七月十一日

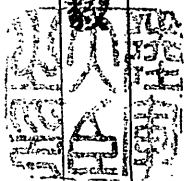
陸軍省 取調課

受第一三三二二號

陸軍省 満發第二九七號 **お守**

明治三十九年七月十日

陸軍大臣寺内正毅



大臣

次官

お守 子孫林董

華たふて於ん有ん人焉 海にけきとて其し標
此より九七号より一四号の間に
有りしお守の字の通申すは
吾もすま

通商局

Handwritten signature

陸軍

MT 5,8,17,12 298

5-0837

02 13

22

本月十九日附リ以テ露國人旧漢場ノ財産ノ関ニ御照會ノ趣了
 承右ニ付クモレニコノ代理人ノ對シテハ五月廿日付リ以テ又セノ
 商會ノ復代理人ノ對シテハ四月廿七日付リ以テ當該漢場ニ在
 漢業上必要ナル建物其ノ他ノ財産ハ軍令ノ規定ニ依リ無償ニ
 テ官ノ所有ニ歸スル旨通知及ヒ假令該議ヲ要スル廉有之
 クモレニコノ對シテハ五月十四日付リ以テ又セノ商會ノ分
 對シテハ同月十七日附リ以テ一應右處ニ取消ス旨關係
 者ニ通知シ處分ノ施行ヲ猶豫スルハ以テ有之假又セノ
 商會ノ代理人ト日本入トノ間ニ於テハ建物漢具等ノ貸貸借
 之類ニハ軍令第十八号ノ規定上官憲ニ於テ公認スル限
 無之限ニ付其ノ契約ノ内容及相手方等ニ就テハ固々關
 知セザル儀ノ有之限係右様御承知相成度及段及固
 居候也

陸軍

明治三十九年六月十九日

樺太守備隊司令官山田保永

代理

樺太民政署民政官熊谷善一郎

陸軍次官石本新六殿

MT 5,2,17,12 300

MT 5,2,17,12 299